



一人の 夢の実

# キャリア教育学習プログラム



## はじめに

近年の社会構造の変化や雇用形態の多様化・流動化などを背景として、将来への不透明さが増幅するとともに、進学・就職を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。

こうした中、子ども一人ひとりの夢の実現を支援するキャリア教育の推進が求められており、本県においても、様々な取組みを進めております。

平成17年度には、「キャリア教育推進協議会」において効果的な推進方策について協議するとともに、「キャリア教育フォーラム」を開催し、講演や先進的事例の紹介を行い、普及・啓発に努めてまいりました。

また、県内の各学校に『キャリア教育の推進について』を配付し、基本的な考え方等の理解を図るとともに、体験学習等を取り入れた実践を進めていただいております。

さらに、キャリア教育は、すべての小・中・高等学校において、発達段階に応じた取組みを積み上げることが重要であることから、各学校のキャリア教育の一層の推進を支援するために、本冊子『キャリア教育学習プログラム』を作成しました。

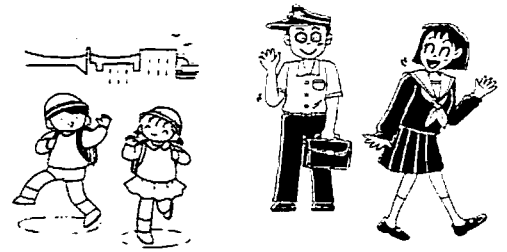
各学校におかれましては、児童生徒の実態に応じた全体計画の作成、具体的実践の充実などに本冊子を御活用いただきキャリア教育を積極的に推進していただきますようお願いいたします。

平成18年3月

山口県教育委員会

教育長 藤井 俊彦

# Contents



## 第 I 章 学校におけるキャリア教育の推進

学校全体での取組みが大切です。そのために必要な情報を提供します。

P.2

### 教育活動全体を通じて

教科・科目や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、現在行われている学校の教育活動全体をキャリア教育の視点で整理し、関連する諸活動を系統化する。

P.3



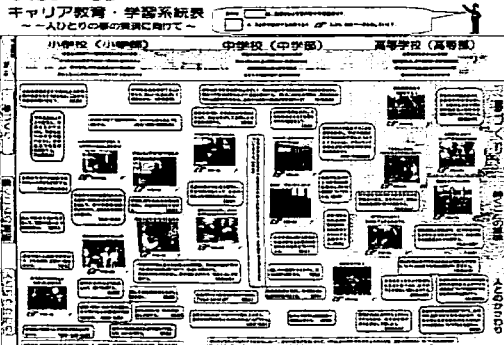
P.5

**夢づくり** 夢や希望をもって、前向きに自分の将来を設計する意欲を高める。

**働くことの意味** 学ぶことや働くことの意味や役割を理解し、自己の進路や生き方を考える。

**人とのかかわり** 様々な人々とコミュニケーションを図り、協力して課題に取り組む。

P.10・11



### P. 1 キャリア教育の考え方

キャリア教育の必要性、そのねらいなどを説明します。

### P. 2 キャリア教育の進め方

推進にあたっての 5つの留意点を示します。

- ・教育活動全体を通じて
- ・小学校の早い段階から発達段階に応じて
- ・教員が十分理解して
- ・体験的な学習を通じて
- ・連携・協力して

### P. 4 キャリア教育の成果と課題

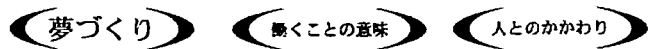
成果と課題について明らかにします。

(課題)

- ・系統性のある全体計画や年間計画の作成
- ・キャリア・カウンセリングの充実

### P. 5 課題への具体的な対応

取組みを促進するために3つの視点を設定します。



### P. 7 全体計画モデルと学習系統表について

キャリア教育全体計画のモデルとキャリア教育にかかわる学習の系統表を提示します。

これらを参考に、学校独自の計画を立案し、キャリア教育の推進を図りましょう。



「キャリア教育学習プログラム」は、  
学校におけるキャリア教育の推進を  
支援します。

## 第Ⅱ章 キャリア教育の展開

小・中・高等学校の具体的な実践を紹介します。

### 【小学校】

- P. 13** 家族とのかかわりを深める  
～家族の生活を支える仕事（食事づくりの工夫）～
- P. 15** 町で働いている人となかよしになろう  
～町探検で知り合いになった人とのかかわりをさらに深める～
- P. 17** ボランティアについて考える
- P. 19** 地域の仕事にチャレンジ  
～ふるさとで働く人々の思いや願いに迫ろう！～
- P. 21** ふるさとCM制作を通して、ものづくりの  
楽しさを学ぶ

### 【中学校】

- P. 23** 激論！！フリーター、ニート  
～社会問題から、働くことの意味や価値を考える～
- P. 25** 勤労の尊さを自覚し、校外奉仕活動に  
意欲的に取り組もう
- P. 27** 職場体験を充実させるために
- P. 29** キャリア・スタート・ウィーク

### 【高等学校】

- P. 31** 自分たちが先生  
～自らの学習を確認し、中学生の農業高校に対する理解を深める～
- P. 33** 学校教育全体でキャリア教育に取り組む
- P. 35** 「プロジェクトR」～専門学校における特色ある取組み～
- P. 37** 専門学校における日本版デュアルシステム
- P. 39** 目指せスペシャリスト
- P. 41** 高大連携教育で進路を考える

P.13



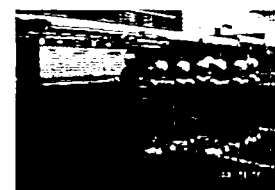
P.19



P.26



P.29



P.38



P.42



## 第Ⅲ章 参考資料

- P. 43** 山口県におけるキャリア教育

## キャリア教育の考え方

### キャリア教育とは

キャリア教育とは、教育活動全体を通じて、児童生徒一人ひとりの自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲・態度や能力を育む教育です。

キャリア教育における「キャリア」とは、「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」とされていることから「生きる力」を育む教育と同じ方向性をもつものであるといえます。

### キャリア教育の必要性

では、なぜキャリア教育を推進しなければならないのでしょうか。それは、児童生徒の進路をめぐって、下記のような様々な課題が指摘されており、その解決に向けて豊かな人間性の育成、望ましい勤労観、職業観の育成、学習意欲と学力の向上、社会的自立の促進等が必要となってきたためです。

#### 進路についての諸課題

- ・ 明確な目的や目標をもたないままの進学や就職
- ・ 不登校や中途退学
- ・ 就職後の早期離職
- ・ フリーター志向の広がりやニートの増加

### キャリア教育の推進

#### 豊かな人間性の育成

一人ひとりのよさや可能性を伸ばす問題解決的な学習や体験的な学習の一層の充実を図り、他人を思いやる心や自立心・責任感を育てる。

#### 勤労観、職業観の育成

働くことの大切さや楽しさを実感させるとともに、勤労観、職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせ、主体的に進路を選択する態度と能力を高める。

#### 学習意欲と学力の向上

進路への関心や目的意識を早い段階からもたせることで、学ぶことへの意欲を高め、学力の向上を図る。

#### 社会的自立の促進

コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等を身に付けさせ、社会的自立を促す。

# キャリア教育の進め方

.....

小学校の早い段階から、発達段階に応じて、児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢を育むとともに、将来、社会人として自立していくために必要な意欲・態度や能力の育成を図ることが大切です。

そのためには、次の点に留意した取り組みが必要です。

## 教育活動全体を通じて

教科・科目や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、現在行われている学校の教育活動全体をキャリア教育の視点で整理し、関連する諸活動を系統化する。

## 小学校の早い段階から発達段階に応じて

キャリア教育のめざす資質・能力は、すべての子どもたちに必要な資質・能力であることから、小・中・高等学校が連携を図り、小学校の早い段階から発達段階に応じて、組織的・計画的に推進する。

## 教員が十分理解して

子どもたちが、学習の成果を生きることや働くことに結び付けるために、教員自身がキャリア教育の意義を理解し、キャリア・カウンセリングにより適切に働きかける。

## 体験的な学習を通じて

職場体験やインターンシップ等の実践的・体験的な学習活動を実施し、経済や社会、職業や仕事についての現実的な理解を深める。



## 連携・協力して

キャリア教育を効果的に推進するために、学校と家庭・地域社会・関係機関などの連携協力体制の構築を図るとともに、キャリア教育推進の気運を醸成し、社会全体で子どもたちに働きかけていく。

発達段階を踏まえる

キャリア教育の基本的な考え方は、校種によって違いはありませんが、具体的な取組みは、児童生徒の実態に応じて計画・実践することが大切です。発達段階を踏まえるために参考になるのが、下に示す表1です。

具体的な目標設定や学習活動を計画する際に活用しましょう。

表1 学校段階別にみた職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題

小学校段階	中学校段階	高等学校段階
〈 職業的（進路）発達段階 〉		
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期
〈 職業的（進路）発達課題 〉		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己及び他者への積極的関心の形成・発展</li> <li>・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</li> <li>・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得</li> <li>・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>・興味・関心に基づく職業観・勤労観の形成</li> <li>・進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>・生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解の進化と自己受容</li> <li>・選択基準としての職業観・勤労観の確立</li> <li>・将来設計の立案と社会的移行の準備</li> <li>・進路の現実吟味と試行的参加</li> </ul>

（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」より）

本県における取組み

本県においても、児童生徒が、学習の成果を生きることや働くことに結び付けるために、発達段階に応じた実践的・体験的な学習活動を実施し、職業や仕事、社会についての現実的な理解を深める取組みを、積極的に推進しています。

推進校・推進地域における取組み

大人に学ぶ小学生サポートプラン



小学校の高学年では、働く大人による講話と体験を組み合わせた5日間の集中講座を実施しています。

キャリア・スタート・ウィーク



中学校では、地域の事業所において、働くことへの関心や意欲を育む5日間の職場体験を実施しています。

インターンシップ



高等学校では、企業・公共機関等において、主体的な進路選択能力の育成を図る就業体験を実施しています。

# キャリア教育の成果と課題

## 取組みの成果

キャリア教育を先進的に推進している学校からは、児童生徒が様々な体験活動を通して、仕事の厳しさや楽しさ、人々の温かさや仕事に対する誇りなどを実感するとともに、自分が社会の一員であることを認識し、自分自身の存在の大切さに気付くなどの成果が報告されています。

また、これらの学校の実践から、成果とともに課題やこれからの取組みの方向性をみることができます。

## キャリア教育の課題

### 系統性のある

#### 全体計画や年間計画の作成

小・中・高等学校を通した取組みに一貫性・系統性がやや欠けるため、学習内容が重複したり、学習効果や評価が曖昧であったり、一過性のイベント的な取組みに終わってしまいがちになったりすることなどの課題があります。

すべての教員がキャリア教育の趣旨を理解し、各教科・科目、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、様々な場面で取り組むとともに、近隣の校種間で情報交換を行うなどの連携を図りながら、キャリア教育の全体計画・年間計画を充実することが必要です。

### キャリア・カウンセリング<sup>\*1</sup>の 充実

児童生徒が将来の夢や希望を描き、学ぶことへの意欲や目的意識、働くことの大切さや楽しさを確かなものとしていくためには、計画的なキャリア・カウンセリングによる適切な働きかけを行うことが必要です。

児童生徒一人ひとりの内面の成長・発達を促し、将来、社会人・職業人として自立していく基盤となる能力や態度を育成しましょう。

\*1 学校におけるキャリア・カウンセリングとは、子どもたち一人ひとりの生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、子どもたちが自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするための、個別またはグループ別に行う指導援助である。



## 課題への具体的な対応

### 全体計画モデル 学習系統表

キャリア教育の課題に対応するために、「キャリア教育全体計画モデル」と「学習系統表」を示します。

- 一貫性・系統性を高める
- 校種間の連携
- キャリア・カウンセリングの充実



全体計画モデル

学習系統表

### 3つの視点の設定

各校種間に系統性をもたせるためには、小・中・高等学校に共通する視点が必要です。

そこで、3つの視点を設定しました。

夢づくり

夢や希望をもって、前向きに自分の将来を設計する意欲を高める。

働くこと  
の意味

学ぶことや働くことの意義を理解し、自己の進路や生き方を考える。

人との  
かかわり

様々な人々とコミュニケーションを図り、協力して課題に取り組む。

次に、これらの視点を設定した理由を説明します。

## 3つの視点について

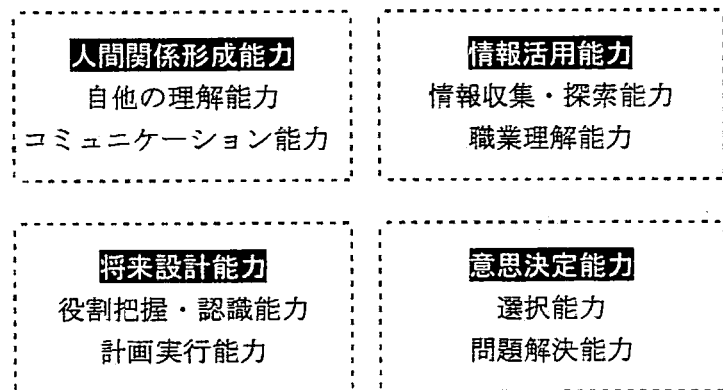
### 教育活動の見直しの促進

様々な教育活動を、キャリア教育の観点から見直し、系統的な取組みを進めていくためには、小・中・高等学校に共通する具体的な視点が必要です。抽象的な視点だと、どの学習活動を見直せばよいのかが曖昧になるからです。

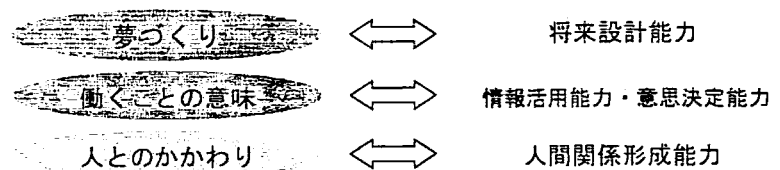
そこで、「夢づくり」「働くことの意味」「人とかかわり」という分かりやすい視点を設定し、教育活動の見直しと系統的な取組みの促進を図ることとしました。

### 育成すべき能力との関連

平成17年3月作成の「キャリア教育の推進について～児童生徒一人ひとりの夢の実現に向けて～」(山口県教育委員会)では、キャリア教育で育成すべき能力を、次のように示しています。



3つの視点は、これらの能力も踏まえながら、できるだけ分かりやすくキーワード化して設定しました。能力と視点の関連は、次のようになります。



### 工夫・改善の方向性の提示

分かりやすい視点があれば、各取組みについて工夫・改善の方向性がより明確になります。「所属する委員会を決めるときに、委員会活動の意義についての話し合い活動を取り入れてみよう」「この学習では、もっと人とかかわる場面を設定できるのではないだろうか」というようにです。

また、3つの視点は実践を評価するポイントにもなります。実践と計画の見直しを繰り返しながら、よりよい教育活動に高めていきましょう。

## 全体計画モデルと学習系統表について

### 組織的・計画的な取組みの 必要性

キャリア教育は、個々の教員だけで取り組むのではなく、学校全体で組織的・計画的に推進することが大切です。そのためには、各学校における全体計画が必要となります。

そこで、全体計画作成上の留意点と全体計画モデルを提示します。ここに示すものは、あくまでもモデルですので、各学校の実態に応じて計画を作成しましょう。

### 学習活動の見直しの促進

学習系統表では、各教科・科目、道徳、特別活動、総合的な学習の時間でのキャリア教育にかかわる学習を、学習指導要領に示されている内容を中心に、3つの視点に沿って提示しています。これにより、各学校がどのような学習を実施し、見直していけばよいのかを判断することができます。

ただし、系統表で示した学習は、キャリア教育にかかわる学習のすべてではありません。あくまでも想定される学習です。学校によっては、総合的な学習の時間に、キャリア教育にかかわる学習を取り入れて教育課程を編成しているところもあるでしょう。

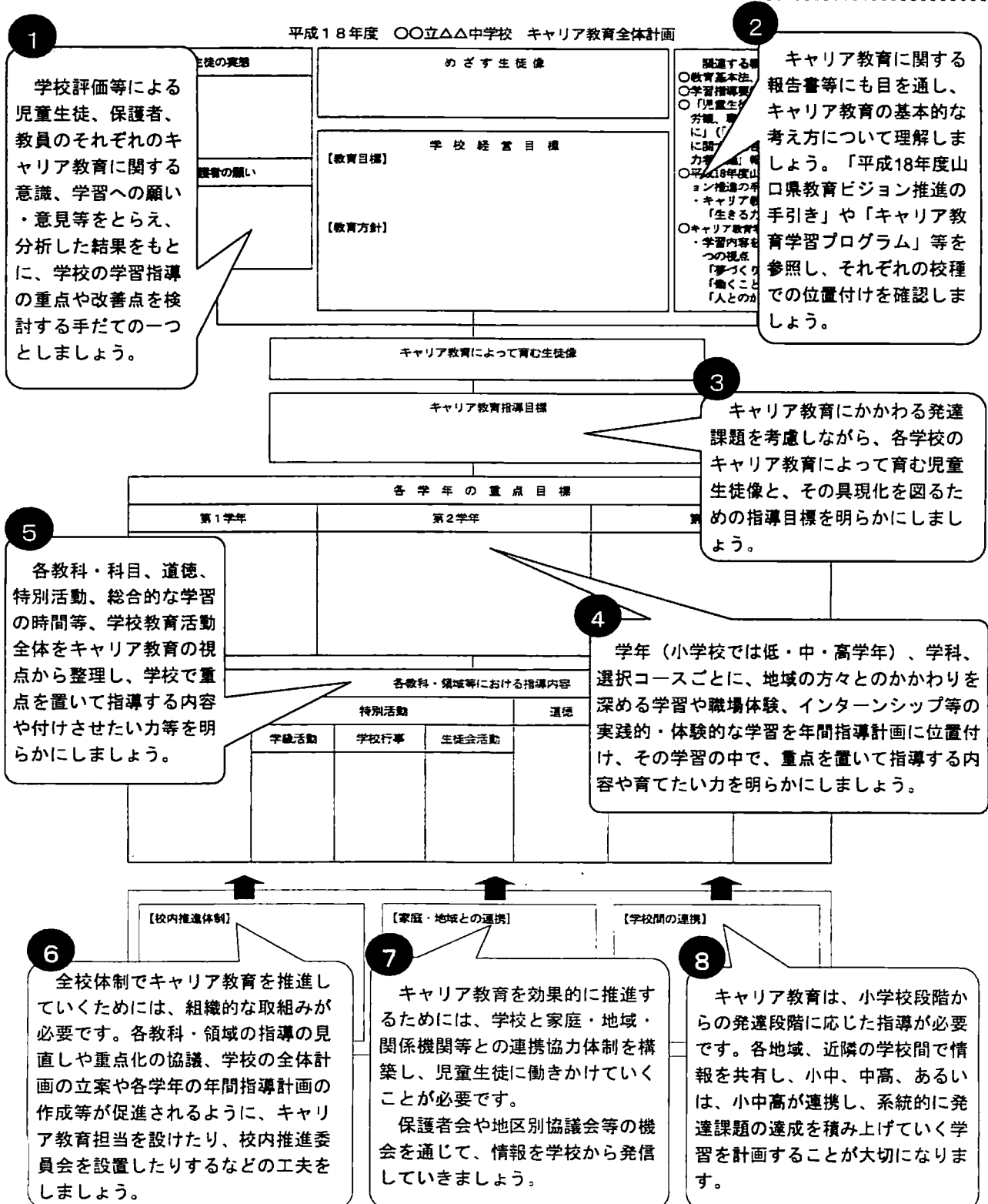
教育活動全体を見直し、各学校で様々な工夫をすることで、キャリア教育をより効果的に推進することができます。

### 他校種の学習内容を踏まえた 目標の設定

各学校でキャリア教育を計画的に推進するためには、児童生徒の発達段階を踏まえ、各段階で身に付けさせたい到達目標を具体的に設定することが大切です。

そのためには、各学校段階でどのような学習が行われているのかを知る必要があります。系統表で提示している学習を参考に、他校種の学校で「子どもたちには、どのような学習経験があるのか」「これからどのような学習に取り組むのか」を考慮しながら、目標を設定し、具体的な学習活動を計画しましょう。

# キャリア教育全体計画作成上の留意点



平成18年度 ○○立△△中学校 キャリア教育全体計画

<p><b>生徒の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度学校評価によると、将来の生き方に結びつく進路指導への満足度はおおむね高い。</li> <li>職場体験学習への期待が高く、体験的な学習が効果的である。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>めざす生徒像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 未来を見つめて学び続ける子</li> <li>○ 努力を惜しまずチャレンジする子</li> <li>○ 理想の実現をめざして熱く燃える子</li> </ul>	<p><b>関連する教育法規等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育基本法、学校教育法</li> <li>○ 学習指導要領</li> <li>○ 「児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てるために」(「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」報告書)</li> <li>○ 平成18年度山口県教育ビジョン推進の手引き             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育を通じた「生きる力」の育成</li> </ul> </li> <li>○ キャリア教育学習プログラム             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容を系統化する3つの視点 「夢づくり」 「働くことの意味」 「人とのかかわり」</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>保護者の願い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度学校評価によると、充実したキャリア学習への満足度はおおむね高い。</li> <li>更なるキャリア学習の充実への期待が高い。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>学校経営目標</b></p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 未来の社会を力強く生き抜く、たくましい生徒を育成する。</li> <li>② 心身ともに健康で、人間性豊かな生徒を育成する。</li> <li>③ 志と広い視野をもち、学び続ける生徒を育成する。</li> </ol> <p>【教育方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高い知性、強い意志、豊かな情操を培う全人教育を推進する。</li> <li>② 個性を尊重し、一人ひとりの能力・適性を最大限に開発する。</li> <li>③ 人権尊重の精神と心のふれあいを大切にする生徒指導、キャリア教育(進路指導)を推進する。</li> <li>④ 家庭や地域社会との連携を密にし、開かれた学校づくりを進める。</li> </ol>	

キャリア教育によって育む生徒像  
夢や希望、志をもち、自らの進路をたくましく切り拓く生徒

キャリア教育指導目標  
各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間における体験的な活動や人とのかかわりを通じ、学ぶことや働くことの意義や役割を理解し、社会性を培うとともに、自分の将来を設計する意欲を高める。

各学年の重点目標		
第1学年	第2学年	第3学年
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 様々な職業を理解するとともに、ボランティア体験学習を実施する。</li> <li>② 学ぶことの意義を考え、将来の夢を実現するための学習方法を身に付けさせる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「先輩からのメッセージ」や「キャリアインタビュー」を通して、自分の個性に合った職業、自分の希望する職業について考えさせる。</li> <li>② 「職場体験学習」で自分の希望する職業を実際に体験し、生徒一人ひとりのキャリア形成に対する意識付けを行うとともに、将来の進路についての展望をもって学習にチャレンジしようとする意欲を育てる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒一人ひとりがライフプランを考えることによって、自分の人生を自分の手で切り拓いていこうとする態度を育てる。</li> <li>② 「高等学校等訪問の体験学習」を通して、進路情報を整理し、今後の学業生活の課題を見つけるとともに、自己の生き方を考える資質を養う。</li> </ol>

各教科・領域等における指導内容						
各教科	特別活動			道徳	総合的な学習の時間	その他の教育活動
	学級活動	学校行事	生徒会活動			
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業での成就感、達成感、自己有用感を育成する。</li> <li>② 将来の職業生活に必要な基礎的知識・技能を習得させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 進路適性の吟味と進路情報の活用</li> <li>② 主体的な進路の選択と将来設計</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 勤労の尊さや喜びの体得</li> <li>② 職業や進路にかかわる啓発的な体験</li> </ol>	学校生活の充実改善を図る活動やボランティア活動を通しての社会性の向上	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。	自己の夢の実現をめざす生き方の探求を目的とし、問題解決のために主体的に行動できる力を高める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒指導の充実を通じ、生徒一人ひとりの規範意識を培う。</li> <li>② 地域、近隣小・高等学校との連携を図る。</li> </ol>

【校内推進体制】

- ・ キャリア教育を総合的に推進するためにキャリア教育担当を位置付ける。
- ・ 全教員による、生徒指導の機能を生かしたガイダンスを推進する。
- ・ 各学年のキャリア教育推進担当を中心に、学習面・生活面の教育相談による継続的な支援を計画・実施する。

【家庭・地域との連携】

- ・ 学校便りや保護者会、地区別協議会、授業参観等を通して、キャリア教育の取組みについて説明し、保護者や地域の方々の理解を深める。
- ・ 職場体験学習で訪問する事業所等へ学習の趣旨を説明するとともに、協力的体制づくりに努める。

【学校間の連携】

- ・ 近隣小学校とキャリア教育の実施状況について情報交換を行う。
- ・ 体験学習で訪問する高等学校等へ、学習の趣旨を説明するとともに、進路情報の提供を依頼し、生徒が主体的に課題解決できる協力的体制づくりに努める。

# キャリア教育の展開



# 家族とのかかわりを深める

～家族の生活を支える仕事（食事づくりの工夫）～

教科・領域 家庭

実施可能学年 5・6年

## 家族のために働く時間を生み出す

家族の一日の生活時間調べ 6年2組 名調( )

家族の誰か	仕事	時間	備考
お母さん	仕事	7:00-17:00	
お父さん	仕事	8:00-18:00	
お兄さん	学校	7:30-15:00	
お姉さん	学校	7:30-15:00	
お友達	学校	7:30-15:00	

＜調べた家族の生活時間＞  
お母さんの仕事は朝早くから夕方までです。お父さんの仕事は朝早くから夕方までです。お兄さんとお姉さんは朝早くから夕方までです。お友達も朝早くから夕方までです。

＜家族の誰か一人一人の仕事を支えるために＞  
お母さんが仕事をするために、お父さんが朝早くから夕方まで働いてお母さんの生活を支えています。お兄さんとお姉さんは学校で勉強して、お友達も学校で勉強して、お母さんやお父さんの生活を支えています。



朝は、忙しいのに、お母さんの仕事が多いんだね。ぼくにもできる仕事がないかなあ。

みそ汁、卵料理、野菜炒め・・・、朝食の一品なら、わたしにもつくれそうだ。おいしい朝食で、家族に元気を出してほしいな。



家庭では、食事や団らんなど家族と共に過ごす時間、家庭の仕事をする時間が必要である。

これらの時間は家庭生活を円滑にし、「家族とのかかわり」や助け合う気持ち、家族への愛着をより深めていく。

そこで、家族全員の生活時間を調べることで、自分の生活が様々な仕事に支えられていることや、家族の誰かが家族のために毎日働いていることに改めて気付かせたい。そして、いつ、どのような仕事が自分にできるかを見付けながら、「家族のために働くこと」の意味を実践と共に考えさせることが大切である。

この学習は、それまでの「手伝い」から「自分の分担する仕事」へと意識を高め、勤労観を育む基礎となると考えている。

## 家族への思いを込めた食事づくり

### 小題材1 わが家の朝食一品づくりに挑戦

朝食は、家族そろって一日を元気にスタートしたい大切な食事であり、一品づくりを工夫することにより、慌ただしい朝の時間を有効に活用することができる。

食事づくりの学習では、単に調理の知識や技能を身に付けるだけでなく、家族の健康や好みを考えながら、「野菜嫌いの妹のために」「塩分の取りすぎに気を付けているお父さんのために」などのテーマをもたせ、家族のために役立ちたいという思いを高めることが大切である。



(家族そろっての食事)

### 指導の工夫～保護者への協力依頼～

家族の生活時間調べや食事調べ、家庭での食事づくりについては、学級便り等に保護者への協力のお願いや調理実習の写真、学習カードを掲載するとともに、子どもへの励ましやお礼の一言をお願いした。



(家族のアドバイス)

子どもたちは、家族から食事づくりの苦労や食品選びの工夫を聞き、これまで気付かなかった家族の思いを知ったり、アドバイスをもらったりして、「働

■ キャリア教育の観点から ■

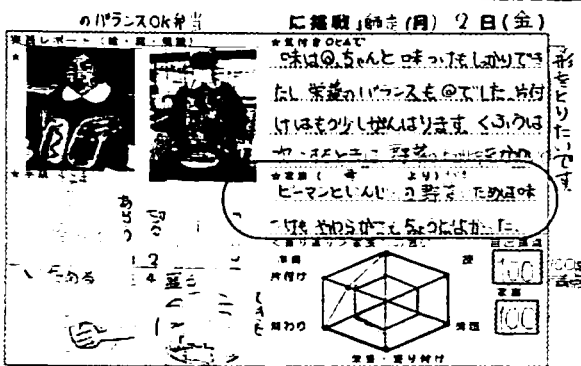
家族の健康を願って食事をつくることにより、「働くこと」を通して家族の生活を支え、心が通い合うことの喜びを子どもに改めて感じさせ、家庭での仕事の意味を考えさせることができます。この実践は、食生活を見つめ直し、食事づくりの知識や技能を段階的に高め、家族の一員として家庭生活を支える意欲・態度を育てています。

く楽しさややりがい」を感じながら、食事づくりへの意欲を一層高めていった。

小題材2 家族の〇〇へ こだわり弁当づくり

「朝食の一品」への挑戦を繰り返しながら、食事づくりの自信を少しずつ高め、学年の最後には、「家族へのこだわり弁当づくり」へと発展的・応用的に学習を進めた。献立づくりでは、学校栄養士とTTを行うことで、専門的かつ具体的な助言が得られ、子どもは、弁当づくりの見通しをもつことができた。

1 食分の食事づくりで一人で取り組んだことで、仕事を成し遂げていく充実感を味わわせることができた。



(母への栄養バランスOK弁当づくり)

<家族からの言葉・アドバイス>

・卵焼きは、チーズを入れて工夫し、とても上手でしたよ。みんなが食べて、すぐになくなるほどの味でした。

片付けを手際よくするといいね。(母より)

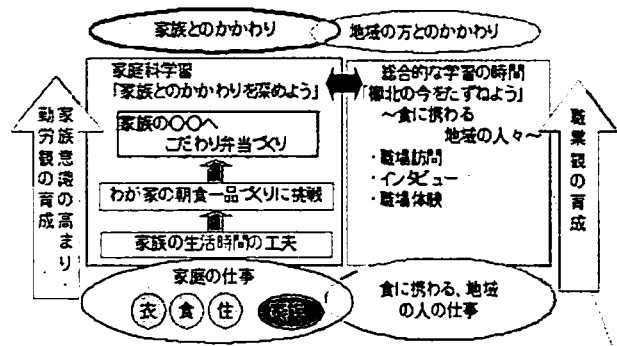
・ピーマンと人参の炒め物は味付けも柔らかさもいいよ。包丁の使い方を練習しよう。

(父より)

勤労観、職業観を高める工夫

本実践は、題材「家族の生活時間の工夫」の学習をベースに、食にかかわる仕事に着目させ、「わが家の朝食一品づくりに挑戦」、「家族の〇〇へ こだわり弁当づくり」の二つの学習を、家庭の仕事に実際に生かす体験を積み上げる題材構想を工夫している。そして、子どもたちの家族意識を高め、家族の生活を支える仕事への責任感を育むことをねらいとしている。

また、この学習と並行して、総合的な学習の時間で、校区内の職場訪問や仕事体験を実施した。中でも、お菓子工場や弁当会社などの食にかかわる職場を訪問した子どもたちは、お菓子や弁当づくりに携わる人人の努力や願いを見聞きし、食に携わる仕事への憧れを抱いたようである。



(題材構想の工夫)

家族を思い食事をつくる体験が基礎となり、ひいては、将来、職業として、地域・社会のために役に立ちたいと願う気持ちの醸成に強く結び付いていくと考える。

(協力：柳井市立柳北小学校)



# 町で働いている人となかよしになろう

～町探検で知り合いになった人とのかかわりをさらに深める～

教科・領域 生活

実施可能学年 1・2年

## なかよし大作戦の計画を立てよう

～繰り返してかかわることを通して～

子どもたちは、地域にある施設や店などを訪問し、インタビューをするなどの町探検を行った。

1回目の町探検の学習後、探検した店の方からA児に届いたビデオレターを見て、「町で働いている人ともっと話をしたい、なかよしになりたい」という気持ちを強くもつようになった。

特産品センターで作っているところを見たいな。作り方も知りたいな。

もう一度パトカーを見たいな。運転しているお巡りさんにいろんなことを聞きたいな。

保育所の先生ともう一度遊びたいな。折り紙が上手だったよ。

バスがたくさんいるとき、バスセンターに行きたいな。運転しないとき何をしているのだろう。

そこで、2回目の町探検「なかよし大作戦」を実施した。もう一度行ってみたい店や施設などを決め、希望が同じ子どもでグループをつくり、町で働いている人となかよしになる作戦を練った。

きちんとあいさつをして、よく話を聞くよ。

たくさんインタビューして、学校のことも教えてあげたらなかよくなれるかな。

探検する前に手紙を出して、忙しい時を聞いたらいいね。

どんなことをしているのかな。僕にもできることがあるかな。

各グループで、なかよしになるための工夫をいろいろ話し合う姿が見られた。

## なかよし大作戦

～町で働いている人となかよしになろう～

2回目の探検では、1回目の体験で気が付かなかったことに気付いたり、聞いてみたいことが増えたりするなど、働いている人と深くかかわることができた。

振り返りカードには、自分とのかかわりに関する気づきが多く見られた。

としょかんに行きました。本はぜんぶで5まん5千さつありました。あたらしい本もどんどんふえるそうです。たった4人であんなにいっぱいの本をきれいにならべているのですごいです。本をととても大切にしていることがよくわかりました。



しりょうかんのかん長さんは、むかしのことをなんでも知っていました。わたしもかん長さんのように、いろいろなことを知りたいです。

きょうは、バスセンターで、うんてん手さんがバスのまどをあらっているのを見ることができました。バスのまどがいつもきれいなわけがわかりました。うんてんしゅさんのしごとは、うんてんだけではありませんでした。

■ キャリア教育の視点から ■

子どもたちは、「町探検」で地域の人々との出会いを通して、地域に愛着をもつようになります。また、繰り返し探検することで、適切なかかわり方を身に付けたり、人々の仕事の工夫に感動したり、自分もその人ようになってみたいと憧れをもったりします。生活科でよく実践される町探検も、「人とのかかわり」「夢づくり」という視点から、取組みを工夫することができます。

ほいくえんに行きました。ほいくえんは、おとうさんとおかあさんがしごとをしていて、おせわをしてくれるおとながない子どもが入れるそうです。わたしは、はじめで知りました。



けいさつしよに行きました。パトカーには、遠いところにいる人とはなしができるマイクがついていました。

何台かのパトカーがきょうりよくしてどろぼうをつかまえるのがすごいと思いました。

きかいでしなもののねだんをうっていました。わたしもやらせてもらったけど、きかいをうまくつかえませんでした。おじさんは、30くらいのしなもののねだんをあつというまにうつので、すごいと思いました。きょうは、店のおくも見せてもらいました。キャベツがたくさんありました。半分で売られているキャベツは、ここで切ってラップをまいていました。

スーパーのひみつを見つけられてうれしかったです。

町探検を紹介しよう  
～かかわりを深める～

探検後、分かったことや思ったことをまとめた新聞をお互いに紹介し合った。



(探検の様子を紹介する)

分かったこと	ごはんをつくるのはせんぶん おなしおももきじないで いけなのをじりました。 とくさんひんひんセンター は、マックスバリーとち かうものめうてまことた 2かいもあてすかた すかひはうくもいいますか 告りまもた。ここがきか てすこのたです。
かんそう	だのしかたです。わたし しもおなになら。た しくさんひんひんセンター のなをつくりたりです。 まかうオセとまかうもの をうりたりです。またい てみたりです。おういて いくのたのしかたです と、おりかたです。かり はつかあました。

(「町たんけん新聞」の一部)

繰り返して探検したことで、多くの気付きをもつとともに、地域で働く人への憧れや自分の将来への夢を抱く子どもも見られるようになった。

教師は、そのような思いを共感的に受けとめ、価値付けるようにかかわった。

それにより、自分と地域の人々とのかかわりを、より深いものにする事ができたと考えている。

(協力：平生町立平生小学校)

# ボランティアについて考える

教科・領域 道 徳

実施可能学年 5・6年

## 総合的な学習の時間と関連を図った道徳の授業

ここで紹介する実践「ボランティアって」は、総合的な学習の時間と関連を図っている。ボランティアにかかわる単元「人にやさしい町づくり」の学習の流れと道徳の時間との関連は次のとおりである。

### 総合的な学習の時間と道徳の時間との関連

・「人にやさしい町」って、お年よりにとっても障害のある方にとっても住みやすい町のことだな。

高齢者や車いすの疑似体験をしてみよう

・アイマスクでは、介助の人を信頼すると少し気が楽になったよ。

【道徳の時間】 主題名 勇気が大切 2-(2)  
だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を養う。

私たちの町は、人にやさしいかどうか調べよう

・地域の人にインタビューして、私たちの町のよいところや不便なところが分かった。  
・今度は、私たちができることに取り組んでいこう。

【道徳の時間】 主題名 働くということ 4-(4)  
働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つようとする態度を養う。

・点字を習って、点字でバス停の時刻表を作りたいな。

・一人暮らしの高齢者の家を訪問しよう。



(点字の学習)

・公園の不備なところを修理するぞ。

高齢者福祉にかかわる活動

障害者福祉にかかわる活動

環境面にかかわる活動

【道徳の時間】 主題名 ボランティアって 4-(4)  
社会のために役立つ喜びを知って、公共のために役立つようとする意欲を育てる。

## 道徳の授業「ボランティアって」

本時の導入では、目の不自由な方から届いた手紙を紹介し、これまで総合的な学習の時間に取り組んできた福祉・ボランティア活動を想起させた。

次に、資料「私たちの小さな駅」を読んだ。この資料は、八戸線のK駅という無人駅で、地域社会のために掃除をする主人公とその家族とを描いたものである。

そして、厳しい寒さや苦しさに負けそうになりながらも、それを乗り越えて雪かきをする主人公の心情を考えさせていくために、意見を出し合った。



なぜ、主人公はボランティアを続けることができたのでしょうか。

主人公は、みんなに感謝されるからボランティアを続けたのだと思います。



ボランティアをすることで、自分が満足するからじゃないのかなあ……。



(主人公の心情を考える)

## ■キャリア教育の観点から■

道徳の時間の学習内容には、「働くことの意義」「社会に奉仕する喜び」などがあります。これらはキャリア教育と直接かかわりがあります。実感を伴った学習にするためには、この事例のように、総合的な学習の時間と関連付けたり、ゲストティーチャーによりその体験を焦点化したりするなどの工夫が考えられます。

子どもたちからは、

- ・みんなが喜んでくれるから
- ・感謝の言葉をかけてもらえるから
- ・自分からがんばろうと決めたことだから
- ・気持ちがいいから

などの意見が出された。そして、それぞれの考えについて話し合いを続けた。

意見が一とおりに出た後、ゲストティーチャーの話をきいた。自分たちが出した意見への感想とボランティア体験などについて

の話があり、子どもたちは熱心に聞き入っていた。授業の感想から、実践的意欲が育ちつつあると考えている。



(ゲストティーチャー)

授業の感想より

私もTさん(ゲストティーチャー)の言われるとおりでと思います。4つから選ぶとき、困りました。声をかけてもらったり、人の役に立てたりして、気持ちがいいと思います。私も少し手話を知っています。それで、ボランティアを今度からでもがんばってみようかなと思います。

人にやさしい町や住みよい町は、だれかが苦勞してやっていることで、だれかがやらないと何も始まらないと思いました。自主的にやるのが大切だと知り、私も続けていこうと思いました。

## 実践後の考察

### 1 実践意欲の高まり

この道徳の時間は、様々な体験を踏まえ、道徳的価値に気づき、その意味や大切さについて考える「かなめの時間」としての役割を担っている。

そこで、総合的な学習の時間と関連を図るために、ボランティア体験を想起させたり、ボランティア活動に取り組んでいるゲストティーチャーとの出会いを設定したりした。

このことにより、互いに助け合うことよさを再確認し、自らの意思で前向きにボランティアに取り組もうとする実践への意欲を高めることができた。

### 2 ボランティア活動への発展

道徳の時間に高まった実践への意欲を、総合的な学習の時間に、ボランティア活動として実現することができた。

具体的には、バス停の時刻表に点字を取り付けたり、一人暮らしの高齢者宅を何度も訪問したり、壊れたベンチを修理するよう市役所に依頼したりするなど、様々な活動に取り組んだ。



(環境整備に取り組む)

(協力：下松市立東陽小学校)

# 地域の仕事にチャレンジ！

～ふるさとで働く人々の思いや願いに迫ろう！～

教科・領域 総合的な学習の時間 実施可能学年 5・6年

## ふるさとの人々の仕事を体験する

子どもたちは、仕事の体験の前に、保護者の仕事の様子や仕事に対する思いを調べることによって、活動に対する意欲を高めた。地域には、接客、製造、医療・福祉関係等、いろいろな職場があるので、全員が希望する職場で活動することができた。

体験した職場は、次の9か所である。

- ・美容院(2) ・市役所 ・老人保健施設
- ・病院 ・旅館 ・商店(2) ・農園

どの職場でも快く受け入れていただき、日頃消極的な子どもも大きな声で挨拶したり、積極的に質問したりする姿が見られた。

また、仕事の手伝いとはいえ、大きな緊張感と責任をもって取り組む活動となり、学校では体験できない様々なことを学ぶよい機会となった。



(老人保健施設の仕事を体験：1回目)

1回目の体験を終えた子どもたちは、達成感を十分に味わい、各職場での活動の様子を盛んに話し合う姿が見られた。

## 体験のめあてをもつ

そこで、道徳の学習と関連付け、働く人々の仕事に対する思いや地域のために尽くそうとする願いについて話し合った。

老人保健施設の仕事を体験した子どもからは、「入所者の自立のためには、自分でできることは自分ですることが大切で、それが本当に相手の立場になって仕事をするのだということがよく分かった。」という感想が聞かれた。

また、商店の仕事を体験した子どもからは、「いつも笑顔で挨拶をしておられる姿に感心した。この笑顔の挨拶が地域を明るい雰囲気にするんだということに気付いたので、見習いたい。」という声があがった。

体験を通してそれぞれが感じたことを話し合うことで、それぞれの思いを深め合うことができた。



(1回目の体験を終えての話し合い)

この話し合いをもとに、「より相手の立場に立って介護をしよう」「接客の仕方について学ぼう」等の新たなめあてをもって2回目の体験に臨んだ。

## ■ キャリア教育の観点から ■

この実践では、身近で働く人々の仕事を実際に体験することにより、小学生なりに「働くことの意味」を考えるとともに、「人とのかかわり」について学んでいます。さらに、地域の人々を招いて発表会を開くなどの交流を進めることにより、ふるさとへの愛着を深めていきます。小学校においては、職場見学で、仕事にかける思いや願いを聞くことなどの取組みから始めることもよいでしょう。

老人保健施設の仕事を体験した子どもの中には、「七夕飾り・短冊づくりをしました。〇〇さんの字がとても上手なので驚きました。」など、相手のすばらしさに気付いた子どももいた。

また、商店の仕事を体験した子どもの中には、「お客さんに笑顔で接すると、お互いの気持ちが通じ合い、心がとても温かくなった。」など、心の通い合いを感じた子どももいた。



(老人保健施設の仕事を体験：2回目)

## 地域の人々に成果を発表する

各職場の方々、地域ボランティアや保護者に加え、次年度体験する予定の下学年の子どもたちも招いて発表会を開いた。

子どもたちは、目で見て、耳で聞いて、手で触れるといった直接体験をしているので、伝えたいことを明確にもっており、発表内容をまとめる段階から主体的に取り組むことができた。

また、お世話になった方々が参観してくださることで、感想も表面的なものではなく、驚きや苦労などの素直な思いを発表することができた。

最後に職場や地域ボランティアの方々か

らも感想をいただき、より達成感を味わうことができたようであった。



老人保健施設の方から、「みなさんが来る日は、お年寄りの顔色がよく、楽しみに待っておられますよ。」ということを知り、私たちの活動が少しでも役に立っていることが分かり、うれしくなりました。

(地域の人々を招いての発表会)

発表会の後もお世話になった方々を運動会に招待したり、年賀状を交換したりするなど、年間を通して地域とのかかわりを深める活動を取り入れていくことで、子どもたちのふるさとへの愛着や働く人への関心が深まり、地域の方々の学校に対する思いも高まった。

## 実践上の留意点

- 1 道徳の学習や各教科等との関連  
教科や領域との関連を図り、年間計画に位置付けることによって、体験したことを生かせるようにする。
- 2 ねらいの明確化  
各職場との話し合いを十分にもち、学校の意図を伝えることが必要である。
- 3 公民館・地域・保護者との連携  
地域と連携して実施することで、より充実した活動ができる。このことは、地域の教育力の向上にも関連している。

(協力：周南市立湯野小学校)

# ふるさとCM制作を通して、ものづくりの楽しさを学ぶ

教科・領域 総合的な学習の時間 実施可能学年 5・6年

## 1 放送局で働いている人の話を聞く 【学習課題の設定】

### 出会い

はじめに放送局の方に次のような話をし  
ていただいた。

- 放送局で働くようになったきっかけ
- 仕事（ものづくり）の内容
- 仕事で苦労したこと、つらいこと
- 仕事のやりがい、働く喜び

日頃の学習  
では知ること  
のできない話  
ばかりだった  
ので、どの子  
も夢中になって話を聞いた。



CMづくりという活動に関心をもたせる  
ため、①放送局での具体的な仕事、とりわ  
け、CM制作（ものづくり）の内容、②取  
材等を通じた人々とのふれあいという観点  
に絞って質問の時間をとった。

子どもたちの関心が高まったところで、  
みなさんも、ふるさとCMづくりをして  
みませんか？

と学習課題を投げかけた。放送局の人にア  
ドバイスをもらいながら、ふるさとのよさ  
を発見するCM制作をすることになった。

グループ毎にテーマを決め、ビデオカメ  
ラ等の操作の仕方を教えてもらったこと  
で、学習の見通しが立ち、30秒のCMづ  
くりに取り組む意欲が高まった。

- テーマ
- 1グループ「磨崖仏」
  - 2グループ「母乳が出る神社」

## 2 グループで工夫してCMをつくる 【学習課題の追求】

### 絵コンテづくり

計画的に制作するた  
めに、カメラで撮る画面と  
映す文字、そして流す言  
葉を計画した。磨崖仏の  
大きさを表現するため  
にふさわしいカメラの位置  
や、町の人にインタビュ  
ーする中で磨崖仏のよさ  
を表現する方法等を教え  
ていただいた。



【なぞ!なぞ?羅漢山】

絵：登山道斜め  
話：磨崖仏はなぜ掘  
られたか? 疑問提示

5秒

絵：石鎚手元アップ  
字：磨崖仏の秘密  
話：だれが? 短く

2カット 5秒

絵：町の人の話  
字：インタビュー  
話：仏への思い

2カット 10秒

絵：仏を下から  
字：終わり(右隅)  
話：感想・まとめ

一部セピア 10秒

### 撮影1

手ぶれしないカメラの持ち方、左右への  
カメラの回し方、被写体と光の位置、一画  
面の長さ等、現場で具体的なアドバイスを  
いただいた。

子どもたちが、プロとしての技のすばら  
しさを感じ取ることができるように、まず  
は子どもたちだけで撮影に挑戦させ、その  
後、放送局の方からアドバイスをもら  
い、出来映えの違いをとらえやすくする  
などした。



## ■ キャリア教育の観点から ■

ものづくりの楽しさを感じ取らせるには、子どもたちが自分たちの技能の向上を実感できるようにすることが大切です。そのために、中間発表会を設けて、作品のよさを発見したり、今後の課題を気付いたりするように単元構成を工夫します。そして、ゲストにもものづくりのポイントやものづくりにかける思い等を語っていただくことで、「働くことの意味」を感じ取らせることができます。

### 3 作品を編集して鑑賞会を行う 【学習課題の達成】

#### 中間発表会

鑑賞会を開き、完成させた作品について放送局の方から、よかった点や修正点について話をしていただいた。



よかった点を放送のプロに認めてもらったり、修正点が明らかになったりすることで、子どもたちは自信をもつとともに、CM完成への確かな手応えも感じたようである。

#### 撮影2

修正点をもとに、絵コンテを練り直し、再度、撮影に向かった。1回目の撮影時と同じように、放送局の方には前半と後半に分かれて現場に来ていただいた。

最後の編集作業にも来ていただき、ついに、自分たちが満足できるCMが完成した。

#### 鑑賞会



最後に、みんなまでCM鑑賞会をし、感想を発表した。計画よりよい出来映えに満足した。

【感想】〇〇さんの撮影のアドバイスが一番心に残っています。「少しずつアップにしていく」「ひさまずいて見上げるように撮る」などを教えていただきました。〇〇さんは、放送局の仕事に自信とほこりをもっておられました。わたしも、そんなやりがいのある仕事をしたいなと思いました。

### 実践上の留意点

- 1 ゲストティーチャーを招く際の留意点  
キャリア学習では、ゲストとして指導者を招くことが多い。その際の留意点として、次のようなことが考えられる。
  - ① 資料や手紙、ビデオレター等ではどうしても解決できないような必要感や切実感を子どもたちにもたせる。
  - ② ゲストからの一方的な講演会にならないようにし、子どもたちからの質問などが適宜行われる自由な交流の場を設定する。
  - ③ ゲストが自分の時間を割いて、学校へ出向いてくださっていることを十分理解させ、感謝の気持ちを態度で表すことができるように指導する。
  - ④ ゲスト本人とその所属長、自校の校長等との事前事後の報告・連絡・相談をきめ細かく行う。

#### 2 ふるさとのよさを感じ取らせる

地元の指導者を招き、ものづくりの対象も地元とすることで、ふるさとのよさを再認識することができた。取材を通して、ふれあった地域の方々の励ましや助言なども具体的な制作過程に生かすことができた。

また、自分の住んでいる町の人やものを大切に思う気持ち、コミュニケーション能力、挨拶や会話における基本的なマナー等を学ぶ貴重な機会ともなった。

(協力：美祢市立重安小学校)



# 激論!! フリーター、ニート

～社会問題から、働くことの意味や価値を考える～

教科・領域 社会科

実施可能学年 3年

## 仕事の目的は？

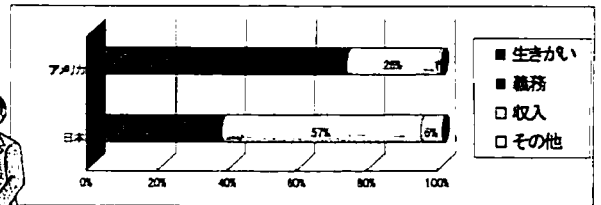
単元「わたしたちの暮らしと経済」の中で、生徒が職業や仕事に対する考えを議論する授業の実践例を紹介する。

授業のはじめに次のような説明をした。

アメリカと日本で同じ質問をし、調査をしました。その質問とは「仕事をどのようなものと思えますか。生きがいですか。義務ですか。収入を得るためですか。」というものです。調査結果は、次のグラフのようになりました。



仕事に関する意識調査



(1999 旧経済企画庁「国民生活白書」より作成)

生徒は、アメリカと日本の職業意識の違いに着目し、感想を発表し合った。



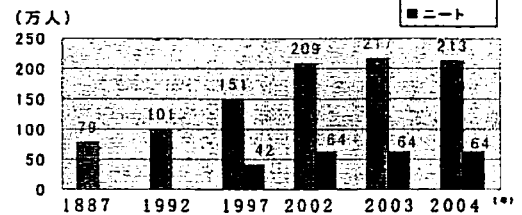
日本人は仕事を生きがいと感じている人が少なく、収入のために働いている人が多いね。

日本人の職業や仕事に対する考えは、今日の社会に何らかの影響や問題を及ぼしているのではないかな。



その後、右の資料からフリーターやニートについて考えることにした。

フリーター、ニート数の推移



(2006年度版厚生労働白作成者より作成)

## ディベート1 フリーター、ニートに対する思い

論題：近年、フリーター、ニートが急増している。あなたはフリーターやニートを肯定するか、否定するか。

### 〔肯定派〕

- 仕事に就く、就かないは個人の自由で、強制されるものではない。
- 若者の中にはギタリストになるという夢を追いながらアルバイトをしている者もいる。そんな生き方は素晴らしいと思う。

### 〔否定派〕

- 大人になると自分で稼ぎ、家族を養うのは当然だと思う。
- フリーターでは収入が安定しないし、仕事があつとあるわけではないので、生活していくことができない。



教師はディベートで出た肯定派、否定派の意見を、「個人の意識」「社会に対する責任」という視点でまとめていった。その後、勤労に関する問題を社会の仕組みの中で考えるために、「フリーターやニート」が増加してきた原因について考えることにした。



## ■ キャリア教育の観点から ■

公民における「個人と社会のかかわり」を学ぶ学習は、内容そのものがキャリア教育とも言えます。本単元では、「フリーターやニート」の増加を取り上げ、働くことの意味や自分の将来について、社会構造と絡ませながら学習していくことにより、社会の形成者として必要な勤労観を育むことができます。

## ディベート2 フリーター、ニート増加の原因

論題：フリーターやニートが増えた原因は、個人の意識が変化してきたからだと思うか、社会の仕組みが変化してきたからだと思うか。

### 〔個人の意識の変化〕

- 自宅にいて親のお金で生活できる若者が多く、仕事を探さなくてもいいと思っているのではないか。
- 仕事が面倒くさいなど、生きがいを感じることができないのではないか。



### 〔社会の仕組みの変化〕

- 不況により、仕事に就いてもすぐに倒産する企業も多く、安心して生活ができない。
- 企業の雇用形態が変化し、正社員より派遣やパートが増加しているなど、安定した収入を得ることが難しい。

雇用形態の変化や景気の後退など、社会構造や社会情勢の変化が大きな原因であることは言うまでもない。しかし、若者が働くことに意味や価値を見出しているか、つまり、勤労を通じた自己実現や社会参加への意識など、個人の意識についても、大きな問題だという意見が出された。



## 働く生きがいを

2つのディベートの後、生徒は生きがいをもって働くことができる「社会の仕組み」について、以下のように考えた。

- もっと自由に、夢をもって職業を選ぶことができる社会にする。
- 意欲のある若い起業家には金銭的な支援をする。
- 誰もがどんな仕事にも就けるように、機会（チャンス）が平等な社会をつくる。
- 何度か仕事に失敗しても、やり直すことができるような社会をつくる。

また、この授業で学んだことを生かしながら、仕事に対する自分の思いや将来の夢を語る姿も見られた。自己実現や社会参加への意識など、「働くことと生きがい」に対する考えが深まっていったと考えている。

（協力：周南市立鹿野中学校）



人のために役に立つ仕事をすることで、生きがいを感じることができると思う。私は医療、福祉分野の仕事に就きたい。

自分自身の好きな車を職業にして働きたい。好きな車が仕事だったら、常に全力で取り組むことができると思う。



やらされる仕事ではなく、自分が貢献を創り出していくような仕事がしたい。ベンチャー企業に興味がある。

# 勤労の尊さを自覚し、校外奉仕活動に意欲的に取り組もう

教科・領域：道徳・特別活動

実施可能学年：全学年

## 奉仕活動との関連を図った 道徳の時間

### ■ねらい■

奉仕活動を通して社会生活の発展・向上に貢献することの大切さや勤労の尊さを理解し、奉仕の精神をもって自ら実践しようとする態度を育てる。

時	教科・領域等	学習内容等
1	道徳の時間	勤労・奉仕（読み物とゲスト）
2	学級活動	「〇〇中磨く会」の意義・心構え
3 4 5	生徒会活動	「〇〇中磨く会」（当日） ～トイレも心もピカピカ大作戦～
6	学級活動	「〇〇中磨く会」の振り返り
7	道徳の時間	勤労・奉仕（読み物）
8	学校行事	トイレ掃除実践者の講演
9 10 11	生徒会活動	1年：ふるさとセンターの清掃 2年：入院中のお年寄の訪問 3年：養護老人ホームの訪問

### 夢づくり

〈あんな生き方をしたいなあ〉

ボランティアをしている人の生き様にふれ、夢や憧れを感じ取る。

### 働くことの意味

〈自分もやればできるんだ〉

トイレ掃除などの奉仕活動に取り組む、働く喜びや充実感を実感する。

### 人とのかわり

〈支え合っっていいな〉

地域の人、特にお年寄とのふれあいを楽しむ。

## 第1時 ゲストを迎えての道徳の時間

進んで社会へ奉仕しようとする心情を養う

### ①導入

ゴミ収集の仕事で苦労した教師の体験を聞き、学習への関心をもつ。

### ②展開前半

資料を読み、主人公の母親が「地区のゴミ収集所」の後片付けを進んでいる理由について話し合う。

Ⓢ 愚痴を言いながらも独りで後片付けをする母親を見て主人公はどんなことを考えただろうか。

- ・お母さんもやりたくないときがあるんだ
- ・人のために働くって大変だろうな
- ・でも、人のために働くことはすばらしいな
- ・自分も母親のように生きることができるかな

※ 母親への共感

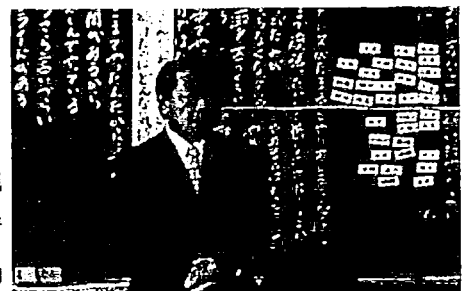
※ 社会奉仕することのよさ

### ③展開後半

みんなのために働いている人を紹介し合う。

### ④終末

ゲスト  
ティーチャー  
（地域の清掃活動



等をしておられる方) の話を聞き、本時の振り返りをする。

※ 社会奉仕の心情の高まり

## ■キャリア教育の観点から■

望ましい勤労観を養うためには、子ども自らが活動の目標や内容を設定できるようにすることが有効です。そして、道徳の時間等で、自分のよさに気付き自己を肯定的に捉えたり、役に立った自分を感じ取れるようにしたりすることで、これからも更に人や社会のために働きたいという意欲や態度を高めます。

### 第3～5時 奉仕活動（トイレ掃除）

「〇〇中磨く会」で学校のトイレ掃除に取り組み、道徳の時間で高まった奉仕の心を実践に生かした。地域の方にも呼びかけて、校区内の事業所や団体、個人にも参加してもらい、一緒に活動した。



### 第7時 道徳の時間

読み物資料の主人公の行動を話し合う中で、自らのトイレ掃除の様子を振り返り、互いのよさを見付け合うことで、次の活動で更に進んで取り組もうとする態度を高める。



### 第9～11時 奉仕活動 （老人福祉施設）

自分たちで計画を立てて、奉仕活動を行った。お年寄りと話が弾み、頼りにされていることを知り、働くことの喜びや充実感を感じ取ることができた。



### 実践上の留意点

- 1 体験活動を生かす道徳の時間の工夫  
体験活動での学びを、道徳の時間に生かすようにする。そのために、導入で、掲示板に設けた道徳・体験活動コーナーや体験活動で書いたワークシートなどを適宜読み返させ、価値への方向付けを図る。  
また、展開では体験活動で感じたことをみんなで話し合い、働くことのよさを実感させたり、終末で、ゲストの生き方にふれさせ、一層道徳的実践力を高めたりする。
- 2 豊かな体験活動にするための工夫  
一人ひとりの思いや願いを生かした自発的・自治的な活動にする。そのために、①活動前にねらいや意義を十分理解できるようにしたり、事後に考えたことをまとめ、互いに発表し合ったりする、②試行錯誤・失敗体験が生かせるように活動内容や時間にゆとりをもたせる、③体験活動を繰り返して行い、子どもの創意が生かせるような単元計画にする、などが大切である。
- 3 地域と共に子どもを育てる  
ゲストを招いて授業を行うには、地域と共に子どもを育てる気運を醸成することが大切である。そのために、地域の人が学校に足を運ぶ機会を増やしたり、生徒や教職員が地域の行事に出向いたり、更に体験活動に対する学校支援委員会などを組織したりして、相互理解や信頼関係を築くことが大切である。（協力：岩国市立錦中学校）

# 職場体験を充実させるために

教科・領域 道徳・特別活動 実施可能学年 全学年

「働くことってどういうことだろう」「将来について何も決まっていない」、こうした思いをもっている生徒のために、職場体験の前に、職業講話、職場訪問等を位置付け、生徒一人ひとりの職業に対する意識や関心を高めることにした。

## 1 ハローワーク（公共職業安定所）の職員による職業講話

職業全般や働くために必要な資質能力について、幅広く周知しているハローワークの職員に講師を依頼した。

【人はなぜ働くの？】

- ・人に認められるため
- ・自分の力を社会に役立てるため
- ・夢を実現するため
- ・お金をかせぐため

【働くために必要な資質能力とは？】

- ・挨拶ができる、敬語を使うことができる
- ・欠席や遅刻をしない
- ・身だしなみが整っている、礼儀を身に付けている
- ・考えて行動したり、提案したりする など

【今すべきことは？】

- ・目標に向かって、勉強していこう
- ・自分をしっかり見つめ、努力していこう

そろそろ将来のことを考えなくっちゃ

「何のために働くのか」なんて、今まで考えたことはなかったなあ

## 2 人生の先輩との紙上Q&A

職業講話後に、生徒は、保護者や地域の人々に働くことや将来についての質問をし、アドバイスをもらった。その内容については、テーマごとに大判用紙にまとめて掲示した。このことにより、生徒は、関心のある仕事に就くために必要な情報や励ましをもらうことができた。

【質問】

私には夢がなくて焦ります。どうすればいいですか。

【アドバイス】

私も中学生の頃は夢なんてありませんでした。夢がないからといって焦ることも悩むこともないと思いますよ。まだ中学生ですから、今からいろいろなことを体験して、そこからだんだんと夢やしたいことを探していけばよいのではないかと思います。

## 3 職場訪問

職場体験の前に実施した職場訪問の際には、マニュアルを参考に、職場への電話や依頼文の作成を生徒自身にさせるとともに、職場訪問で相手に不快な思いをさせずにインタビューができるよう教員を相手にリハーサルを行った。

インタビューを受けた教員からの気づきをまとめた資料を生徒に配付し、事前指導を行った後、職場訪問を実施した。

生徒は、グループごとに、農園、和菓子屋、コンビニ、保育園、学校、社会福祉施設、

■ キャリア教育の観点から ■

生徒一人ひとりが、意欲的に職場体験に取り組むとともに、働くことに対する意識や関心を高めるためには、ただ体験をさせるだけでは十分ではありません。実際の体験の前に、様々な人々とのかかわりを位置付けるなどの工夫により、より意味のある職場体験をつくりだしてほしいと思います。

警察等の職場を訪問し、自分たちが考えた質問をもとにインタビューを行い、身近な職業についての理解を深めたり、適切なコミュニケーションの取り方を学んだりすることができた。

先生からの気付き

- ・相手の顔を見て話すこと。紙やメモを見るのではなく、できるだけ覚えること。
- ・最初の印象が大切。笑顔で、愛想よく。
- ・友達同士で目配せしたり、こそそ話をしたりするのは感じが悪い。

園長先生、一番楽しいことは何ですか。



子どもの元気な笑顔と成長を見るときですね。

4 職場体験

2日間にわたり、市内外で職場体験を実施した。

生徒は、収穫、接客・レジ打ち、新聞作り、保育の補助や手伝い、和菓子作り、空ビンの洗浄とラベル貼り等の学校ではできない活動に自ら進んで取り組んでいた。

この後、事業所での仕事及び活動内容、感想文、自己評価や事業所からの評価結果を冊子にまとめた。さらに、文化祭において、職場での活動の様子を劇や壁新聞の展示により紹介し、各自が体験した仕事について、理解を深め合った。

(協力： 山口市立宮野中学校、防府市立大道中学校)



感想文より

一日中立ち続けて、かなり足が疲れたけど、休日はもっと忙しいと聞いてびっくりした。「いらっしやいませ」「ありがとうございました」の挨拶とお礼の大切さを改めて実感した。

自己評価より

- 商品の仕分けが思ったより早くできた。
- 薬剤師の仕事に興味をもって、また、大変さもよく分かって勉強になった。
- △ お店の人に頼りすぎていた。
- △ お客さんに何度も聞き返してしまった。



職場の人からの気付き

- 実直、真面目に取り組んでいました。
- 少し教えるだけで、いろいろなことに気付き、よくやっていたと思います。
- この体験が、将来の指針になったことと思います。
- △ 将来のためにも、もっと質問があってもよかったと思います。
- △ 敬語や言葉遣いについては、地域社会での大人たちとのコミュニケーションをとれる環境がもっと必要ではないでしょうか。



# キャリア・スタート・ウィーク

教科・領域 総合的な学習の時間 実施可能学年 2年

## 5日間の体験学習

「キャリア・スタート・ウィーク」では5日間以上の職場体験学習を実施することで、より現実の仕事に近い体験が可能となる。また、地元企業での体験を通して、働くことの楽しさや重要性を感じることで、将来的にフリーターの減少や地域定住の促進にも役立つのではないかと考えている。

5日間を2期に分けて実施し、間に振り返りの期間を設ける。2期では1期の反省点を踏まえ、生徒も自分なりに創意工夫して仕事に取り組み、目的意識を高めた自立した体験ができるようにしている。

## なりたい自分の発見

生徒は、1年生のときに、広くいろいろな職業について調べており、それをもとに、図書室の資料やインターネット等を活用して、自分がなりたい職業について調べる。

調べた職業で体験学習をするので、意欲的な調べ学習となる。興味があり働いてみたい職業について調べることで、将来「なりたい自分」を見付け、体験への期待も膨らむ。その期待に応えるため、生徒の希望を優先した職場探しを行うが、他校も体験学習を実施するため、職場探しは難しくなる。そこで、教育委員会が事務局となり、産・官・学の協力体制を整えたキャリア教育実践協議会を設置し、職場探しや体験活動をバックアップしている。

## なれる自分への第一歩

1期は夏休みに行い、生徒は期待感を抱いて職場へ出かけていく。事前学習を積み上げてきたつもりだったが、職場からは「挨拶ができない。返事が小さい。私語が多い。」など日常生活レベルの問題も多く指摘された。次回の受け入れに難色を示す事業所もあり、評価は厳しかった。

緊張の1日目と仕事に慣れ始めた2日目

### なりたい職業調べ

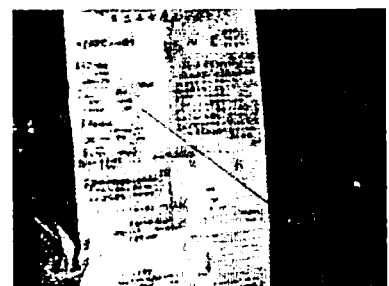


○ 将来自分が就いてみたい、興味・関心のある職業調べ

### 1期体験(夏休み)



### 1期体験発表

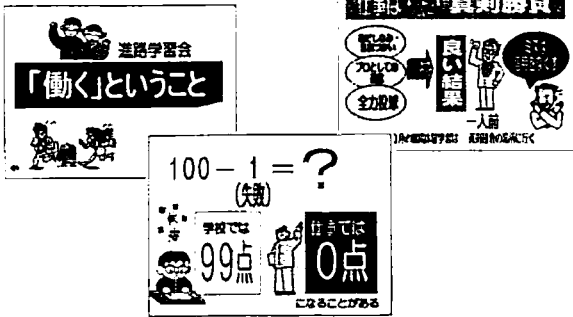


○ 1期での体験内容、改善点  
○ 2期の体験での目標や課題

■ キャリア教育の観点から ■

5日間の職場体験学習を実施することにより、子どもたちの体験や体験先との人間関係が深まるとともに、働くことの素晴らしさ、喜び、厳しさなどの理解が進むなど、様々な効果が期待されます。このことにより、子どもたちが勤労観、職業観を形成する充実した体験とすることができます。

が終了し、多くの課題や反省点が見付かった。そこで、1期体験発表では体験の内容に加え、2期を充実させるための視点も取り入れた。また、キャリア教育推進協議会から講師を派遣してもらい、働くことの意義についても学習した。



このような取組みにより、2期の体験学習では、スムーズに仕事に取りかかることができた。職場での評価も格段に向上し、「大きな声で挨拶し、よい仕事をするために積極的に質問するようになった。」「指示を待っているだけではなく、自分から進んで動けるようになった。」などの感想をいただいた。

2期体験(11月)



【生徒の感想】

◎私は、5日間の体験で、仕事の苦勞、辛さ、楽しさ、喜び、おもしろさなどいろいろなことを知り、何のために働くのかを考え直しました。また、仕事を通して、今の学校での勉強の大切さにも気付きました。自分は将来どうしたいのかももう一度よく考えたいと思いました。新たな目標を発見する貴重な体験をすることができました。

2期発表には、体験先の事業所の方も招待し、成長した生徒たちの姿を見てもらった。また、1年生も参加し、次年度の実施に向けて意欲付けを図った。

キャリア・スタート・ウィークをきっかけに、これまで仕事を漠然ととらえていた生徒が、働くことに対する認識を深め、自分のなりたい職業に就くための資格や方法を真剣に考え始めた。

憧れでスタートした「なりたい自分」から、努力すれば「なれる自分」を発見し、その夢を実現するための第一歩を着実に踏み出した。

(協力：長門市立深川中学校)

2期体験発表





# 自分たちが先生

～自らの学習を確認し、中学生の農業高校に対する理解を深める～  
 教科・領域 課題研究 実施可能学年 3年

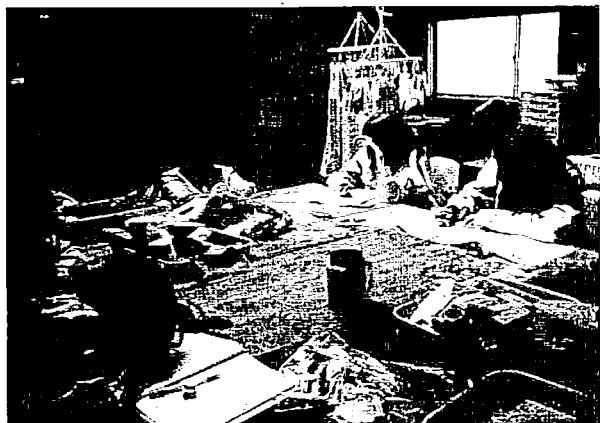
## 中高の交流学习

中学校と高等学校の連携交流事業として、高校生が体験活動を通して中学生に農業に関する学習内容を指導する。生徒が自ら学んだことを中学生に教えることは、農業を学ぶことの意義を確かめ、学習意欲を高めるよい機会となる。また、「教えること」は、「学ぶこと」であり、指導内容・方法の検討を通して、自らの学習を振り返り、内容をより深く理解し直すことにもなる。

対象は交流校の中学2年生全員である。農業は、食や環境など生活に密着した分野である。また、「食育」が見直されている今日、その重要性を増しており、中学生にとっても貴重な学習の場となる。

## 開設コースの決定

コース開設に当たっては、課題研究の中から、中学生の興味・関心にも配慮した内



(講座の内容を検討し事前準備をする生徒)

容が設定される。事前に、模擬授業、模擬実験などを実施し、所要時間、安全性など様々な角度から検討が加えられる。教師からのアドバイスも参考に、14コースが開設された。

【開設講座各コースの定員と学習内容】

講座	コース	定員	内 容
動物生産	動物A	20	家畜(牛豚鶏)の飼育管理
	動物B	20	家畜(牛豚鶏)の飼育管理
植物生産	野菜	20	野菜の栽培管理
	果樹	20	果樹栽培
	作物	20	田植え
	草花	20	観葉植物の繁殖
食品工学	食品製造	15	うどん作り
生物工学	食品化学	14	簡単な食品成分分析
	生物工学	15	やさしいバイオテクノロジー
生活文化	食 物	20	調理の実技テストに挑戦
生活福祉	生活福祉	16	介護体験
	生物活用	15	園芸セラピー体験
農業土木	農業土木	20	コンクリートの作り方と強さ
	農業土木	20	測量にチャレンジ
森林資源	森林資源	16	コースター作り

## 各コースで実習体験

高校3年生にとって、中学2年生は4歳年下であるが、初対面ということもあり初めはかなり緊張している。体育館での全体会が終わり、各会場へ中学生を誘導するころから少しずつ緊張がほぐれていく。

授業が始まる前、生徒たちは、「静かに話を聞いてくれるだろうか。」「学習内容をきちんと分かってくれるだろうか。」など、様々な不安を感じている。しかし、説明後の実験・実習になると、小グループでの活動になるため教えやすくなり、和やかな雰囲気が進められるようになる。

## ■ キャリア教育の観点から ■

自分で学習した内容を、中学生に伝えることにより、農業を学習することの意義を確かめるとともに、学習の専門性を生かした進路選択への意識が高揚される。また、教えるための振り返りにより、学習への意欲が高まり、内容のより深い理解につながる。中学生にとっても、進路選択をするうえで、貴重な体験学習となる。

高校生は、中学生に教えることで、コミュニケーション能力も育成される。中学生にとっても農業に関する学習だけでなく、教えてくれた高校生に対して敬愛の念も抱き、農業高校についてより深く理解する。



(各コース 体験実習の様子)

### 【中学生の感想】

#### <草花コース>

大人になって暮らしの中で、植物を育てるときに役立つことが聞けました。植物を育てることに精神を和らげる作用があることを知り、植物はすごいと思いました。農業の勉強もおもしろいなと思いました。

#### <野菜コース>

野菜のクイズがありましたが、全然分からなくて、野菜のことを知らないんだなあと思いました。農業高校に行って、自然にふれることができ、自然を大切にすることは大事だと思いました。

#### <食品化学コース>

簡単な食品成分分析ということでしたが、不器用な自分には少し難しかったです。でも、高校生のみなさんが親切に教えてくれたので、楽しくできました。専門高校で、それぞれ専門分野の勉強をするのも、おもしろそうだなと思いました。

## アンケートの実施

終了後実施したアンケートによると、中学生は、「将来の進路を考える上で参考になったか。」の質問に、6割の生徒が「進路設計に役立った。」と回答している。将来の進路選択の幅を広げる貴重な体験として受け止めている。

高校生は、「指導内容を十分理解させられた。」「交流学习は必要である。」の回答が多い。自らの学習を振り返ることによって、自分の学習に自信を深めるとともに、これからの学習に対する意欲の喚起を図ることができた。

### 【高校生の感想】

- 分かってもらえるかどうか不安だったけど、熱心に聞いてくれる中学生の姿を見て安心して話すことができた。自分たちの研究に自信がもてたし、将来、今勉強していることを生かした職業に就きたいという思いも強くなった。農業について勉強する大切さを確認できたよ体験だった。
- 質問をされてすぐに答えられないこともあり、戸惑う場面もあったが、中学生が果物の栽培に興味をもってくれたことがうれしかった。農業を学ぶことの楽しさを知ってもらい、進路選択の参考にしてほしいと思った。

(協力：山口農業高等学校)

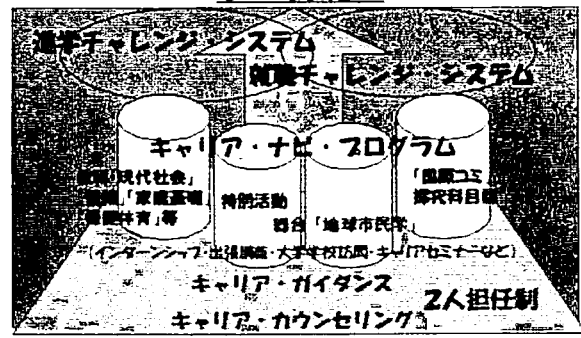
# 学校教育全体でキャリア教育に取り組む

教科領域 特別活動 総合的な学習の時間 実施可能学年 全学年

キャリア教育とは「生きる力の育成を支援する総合的な教育活動である」との認識のもと、生徒の夢の実現を組織的に支援できるように、教育活動全体でキャリア教育に取り組んでいる。

そこで、生徒自身が興味・関心をもとに将来を設計し夢の実現をめざす総合的なプログラムとして「高森夢チャレンジプロジェクト」を策定している。

## キャリア教育推進(高森夢チャレンジ・プロジェクト) 夢の実現へ



## キャリア・カウンセリングの充実 (一人ひとりへのガイダンス)

個に応じたきめ細かな支援を重視する観点から、キャリア・カウンセリングをキャリア教育の土台と位置付け、生徒が進路を主体的に選択できるよう指導している。

- ・学級二人担任制を導入し、一人の担任が20名の生徒を担当する。
- ・各学年とも年5回以上個人面談を実施し、生徒が進路を主体的に選択決定できるよう支援する。
- ・生徒の疑問や悩みを受け止め、意志決定を促し自立支援を継続的に行うとともに、可能性や適性の自覚を深める。

### カウンセリング・モデル

- ① 全教員がキャリア・カウンセラー
- ② 相談時間は15分程度
- ③ 各学年、各学期毎に2回程度実施
- ④ 相談の中で、生徒との信頼関係を築きながら、生徒の小さな変化や思考を捉え、適切に支援
- ⑤ 生徒の自発的な気付きを大切にし、多くを指示するのではなく、受容を重視した応える姿勢
- ⑥ それぞれの学年のそれぞれの時期に応じ、目的を設定した相談活動を実施
- ⑦ 「進路ノート」等を活用し、生徒が抱えている課題を確認し、次回までに課題の解決への取組みを指示

## キャリア・ナビ・プログラム (集団を通じたガイダンス)

キャリア・ナビ・プログラムとは、キャリア発達を促す体験活動や学習活動の総称であり、教科学習や特別活動、総合的な学習の時間を中心として取り組んでいる。

### ○大学等の見学

近県の大学等3つのコースに分かれ訪問している。学校の説明を聞き、施設見学や体験講義を受講した。充実した施設や体験講義に刺激を受けて、その後の学習への取組みも一層意欲的になっている。



(山口大学を見学)

■ キャリア教育の観点から ■

これは、キャリア教育を教育活動全体で推進していくモデルとして参考になります。キャリア・カウンセリング、ガイダンスを土台として、特別活動や総合的な学習の時間において特色ある活動を取り入れながら、各教科とも連携を図りつつ、系統的な計画が構成されています。このように、各校の実情に即した進め方を構築することが大切です。

○ 職業人座談会

地域の企業等の第一線で活躍する職業人である税理士、警察官、消防士などを講師に招き、パネルディスカッションと座談会を行っている。生徒は、イメージだけでとらえていた職業を具体的に感じ、進路意識の向上につながっている。



(職業人座談会～講師の紹介)

○ インターンシップ

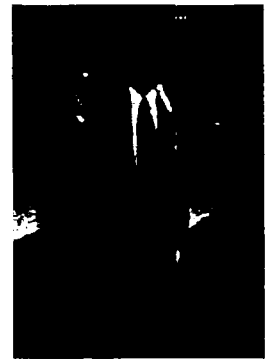
「体験を通じて自己の適性や興味・関心を知る」「体験を通じて、職業について具体的な情報を収集する」「望ましい勤労観、職業観の育成を図る」「地域社会に目を向け、社会性を身に付ける」という4点を目的として、インターンシップを1年生全員を対象に3日間実施し、大きな成果をあげている。



(インターンシップの様子)

○ 大学出張講義

生徒の進学意識の高揚と上級学校学習内容の研究を目的として、大学、短大、専門学校の講師を招へいして取り組んでいる。



(大学教授の講義)

○ 地球市民学

総合的な学習の時間を「地球市民学」とし、国際理解や環境問題などについて、生徒が現代社会の諸課題をもとに探究活動を進めていけるよう、進路希望別のグループ活動を取り入れている。研究成果は、レポートにまとめ、年度末の発表会で披露している。

「地球市民学」個人研究テーマ(例)

糖尿病と糖尿病との関係	遺伝子組み換え食品
リサイクル ペットボトル	CG(コンピュータグラフィックス)の作り方と実証
若者の犯罪がなぜ起こるのか	オーストラリアのカンガルーを助けるには
日米外交の歴史	日本の教育と外国の教育
経済学について	年金問題と法律について
漢学について	消防士になるには
保育・幼児について	作業療法士について

日々の授業を大切にする

各教科・科目もキャリア教育の重要な一翼を担っている。各学習内容には自他の在り方・生き方を考える要素を含んでいる。

授業や諸活動等、教育活動全体で、キャリア教育を推進し、生徒の夢の実現のために取り組んでいくことが重要である。

(協力：高森高等学校)

# 「プロジェクトR」～専門高校における特色ある取組み～

教科・領域 総合的な学習の時間

実施可能学年 2年

## インターンシップ ～企業に学べ～

総合的な学習の時間「プロジェクトR」において、職業的資質を身に付け、将来にわたって自己実現を図るための基礎を育んでいる。第2学年では、企業での就業体験学習を通じて、望ましい勤労観や職業観を育むことをねらいとして「インターンシップ」を実施し、第3学年での学習に継続・発展させていく。

### ○事前学習

実り多い実習とするためには、心と体の事前準備が大切と考え、外部講師の活用やビジネスマナーに関するロールプレイングを取り入れながら、挨拶などの礼儀指導、敬語表現、言葉遣いの練習、進路に関する自己分析（自己の性格、興味・関心、能力を探る）など、将来の職業人としての資質向上に不可欠な「まなび」の機会を設定している。



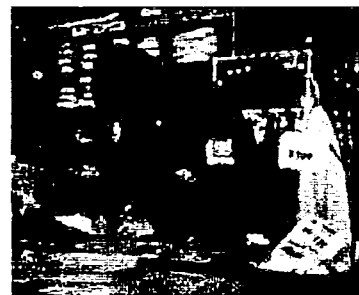
### ○実習

十分な事前指導を経て、いよいよ実習を迎える。実習生を受け入れるのは、近郷市町の約45の事業所で、製造業、販売業、海運会社、官公庁など、職種や分野も様々である。



各事業所では、これまで学んだ商業科目の知識と技術を生かすとともに、コミュニケーション能力や協調性、積極性等が必要である。

また、専門高校生としての実習ということから、事業所からも小・中学生よりもレベルアップした内容を要求され、新入社員と同様の扱いの中で業務に励むこととなる。



### ○事後学習

礼状の作成や感想文のまとめとともに、自己評価票も作成する。

本校では「テキスト兼実習日誌」を製本・配付し、計画的かつ統一的な指導が展開できるよう工夫している。記録内容は評価にも活用し、学習状況の評価とともに、指導助言や気づきを備考欄に書き入れ、フィードバックさせている。このことにより、個に応じたきめ細かな指導を図ることができ、生徒の内的な変容を促すとともに教員が的確にそれを把握することができる。次頁の実習日誌の例からも、生徒の意識や考え方に変容や進歩がうかがえる。



# 専門学校における日本版デュアルシステム

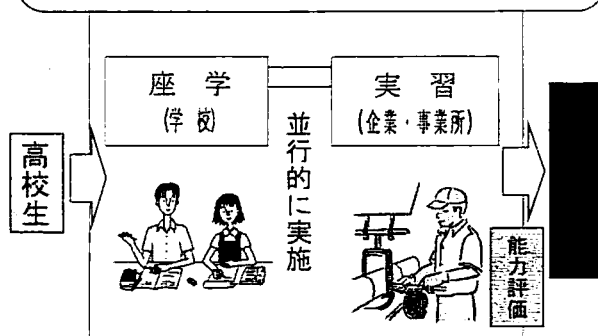
教科・領域 企業実習・課題研究等 実施可能学年 2年

## 日本版デュアルシステムとは

「日本版デュアルシステム」とは、企業での実習と学校での授業等の教育とを組み合わせる人材育成のシステムである。

生徒は、企業や事業所における長期の実習を通じて、学校だけでは学ぶことができない実践的・専門的な技術・技能を習得するとともに、勤労観、職業観をより一層深めることができる。

## 日本版デュアルシステム



## デュアルシステム推進地域における具体的なねらい

- ① 地域の産業・企業の実践的・実践的職業知識や技術・技能の習得を通して、生徒の資質・能力を一層伸長し、将来の「スペシャリスト」を育成する。
- ② 生徒の主体的な進路選択の能力や職業意識を育てる。
- ③ 地元企業と連携しながら、マーケティング能力、会計活用能力、情報活用能力という経済社会の変化に柔軟に対応できる能力及び起業家精神の育成を図る。
- ④ 先進的・実践的な技術・技能を習得できる実務経験を通して、ものづくりにおける創造的な能力の育成を図る。

## 日本版デュアルシステムの実際

### 工業高校の取組み状況

	16年度	17年度	
	(夏季休業中～2学期)	前期 (夏季休業中)	後期 (10月)
実施期間	10日間	5日間	14日間
事業所数	23事業所	54事業所	56事業所
生徒数	46名	107名	86名

技術・技能の習得のみならず、職務遂行に当たっての心得、社会の仕組みや職業・職種への理解、働く意欲と健全な人間関係などを学ぶこともねらいとしています。生徒は一生懸命取り組み、「よく頑張った」と賞賛の言葉をいただいています。地元企業と強い結び付きをもち、地域に貢献できる学校をめざしています。



### 商業高校の取組み状況

	1日型 (終日)	半日型 (午後から)
期間	5月～12月・週1回	5月～12月・週1回
内容	事務、販売、介護等	保育、ブライダル、販売等

平成17年度は、「企業実習」という選択科目を新たに設定し、3年生の希望生徒23名が21事業所に週1回、午後の授業や放課後を利用して実習に取り組みました。

1年生の「企業見学」、2年生の「インターンシップ」での体験と併せて、この実習は、主体的に進路を選択する能力を養うことができ、キャリア教育の集大成としてとらえています。

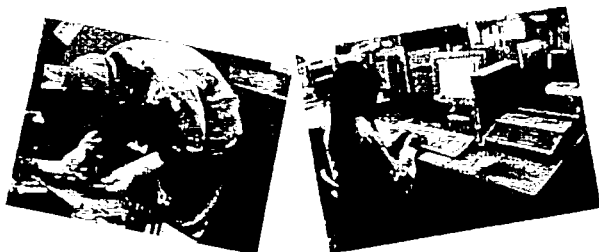


## ■キャリア教育の観点から■

長期間の実習を終えた生徒は、より現実的な職業観をもつようになります。職業意識を高めた生徒は、学習に対する目的意識も高まるので、実習後の学校生活がより充実したものになります。この人材育成システムは、地域、企業等の連携を図りながら、実践的な研究が進められています。

### 生徒の感想

実習は、根気のいる作業が多かった。初めて本当の職場というものを体験してとても緊張していたが、社員の方々がとても優しく丁寧に教えてくださり感謝をしています。職場では、期限を必ず守るといのは当たり前で、そういうところが社会人と生徒の違いであることが分かりました。



私は、自分の考えが甘かったと思います。ただ人とかかわりたいから販売という考え方だったのですが、実習を通して、本当に働く厳しさ、辛さというのが分かった気がします。自分の甘さに気付いたので、進路決定に役立てたいと思います。

### 意識調査の結果

「日本版デュアルシステム」実習でどのようなことを学びましたか。(複数回答可)

- 礼儀・マナーの大切さ・・・ 76%
- 安全の意識・・・ 65%
- 企業の雰囲気・・・ 57%
- 社会人の厳しさ・・・ 43%
- 技能・技術の体験・・・ 43%
- 気配り・・・ 33%
- 親の苦勞・・・ 20%

### 実践上の留意点

1 実習内容と生徒の希望とのマッチング  
各事業所の実習内容と生徒の希望する職種の仕事内容が可能な限り一致するようにすることが大切である。個別面談を実施して、生徒が何を目的に何を学びたいのかを事前に調査しマッチングを図る。そうすれば生徒は、実習に意欲的に取り組むことができ、長期間の実習での成果が期待できる。

#### 2 定期的な企業訪問

企業側から生徒の実習の様子を聞くだけでなく、定期的に担当教員が実習の様子を直接見ることにより、企業側からの要望等に早く対応し、生徒への助言や指導が適切にでき、評価や事後指導に役立てることができる。また、企業との交流を通して教員の進路指導力の向上が期待できる。

#### 3 生徒意識調査の実施

実習に行く前の生徒の企業への思い、意識、考えや適性が、実習を通じてどのように変わったかを知ることは極めて重要である。生徒の意識調査を事前・中間・事後と実施し、企業実習の成果を確認することができた。



(実習中の様子)

(協力：徳山工業高等学校 徳山商業高等学校)



# 目指せスペシャリスト

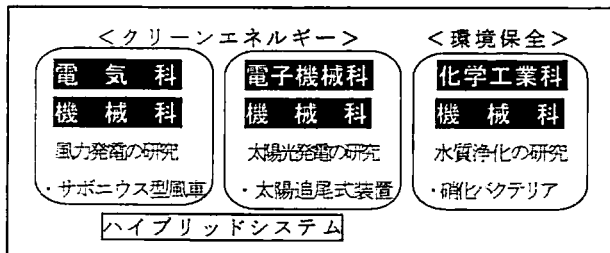
教科・科目「環境考学」（学校設定科目）

実施可能学年 全学年

## 1 学校設定科目「環境考学」とは

クリーンエネルギーや環境問題についての意識を高め、環境保全や新エネルギーの開発に主体的に取り組む技術者を育成するために、「環境考学」という学校設定科目を開設している。具体的には、1年生全員が、各学科の特色を生かして、風力発電、太陽光発電、水質浄化に関する研究を行っている。

また、2年生では、各学科から意欲のある生徒を募ってスペシャリストチームを編成し、サボニウス型風力発電・追尾式太陽光発電によるハイブリッドシステムの技術開発と、水質浄化セラミックスを活用したコンクリート壁の河川の水質改善の技術開発について研究を行っている。

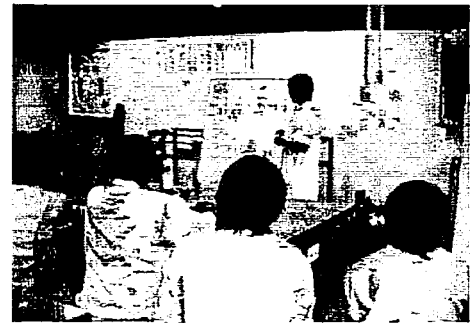


（各学科の研究内容）

## 2 専門的な知識・高度な技術を求めるために

環境・エネルギーについての専門的な知識を身に付けるために、地域の大学の公開講座や新エネルギー研究開発シンポジウムを聴講したり、大学の工学部や工業高等専門学校、さらには地域の企業から研究者を招いて講演会を開いたりした。

特に水質浄化に関しては、最先端の機器を使用するため、生徒は、専門機関の研究室を見学して、機器操作等について学習した。

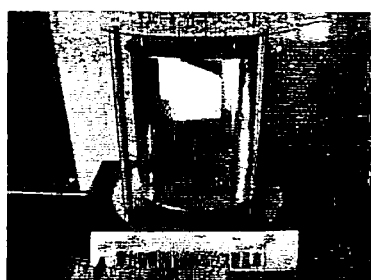


（高等専門学校の研究室での学習）

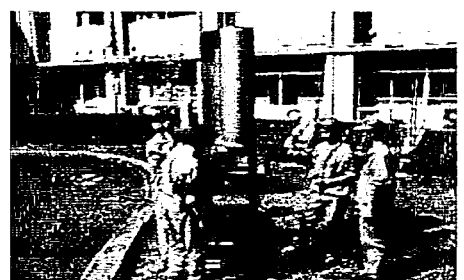
このように、専門的な研究者や開発者から学ぶことで、意欲的に学習に取り組むことができるとともに、専門的な知識を得るだけでなく、誇りをもって仕事をするこのすばらしさも感じ取ることができる。



（サボニウス型風車の模型の作製）



（サボニウス型風車の試作器）



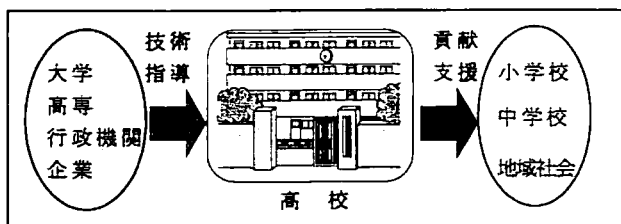
（自作風力発電装置の設置）

### ■ キャリア教育の観点から ■

地域との連携によって、優れた技術をもった人とかかわりながら、実験や実習に取り組む学習です。この学習により、先端技術の一端にふれ、基礎学習の大切さに気付いたり、将来の技術者への夢を抱いたりしています。また技術者の役割や価値についても学ぶことができる実践となっています。

## 3 実用化に向けての総合的な取り組み

環境・エネルギー分野のスペシャリストの育成をめざして取り組みを進めているが、真のスペシャリストになるためには、研究成果と実用化を結び付ける必要がある。そのために、各学科が共同して研究を行い、試作研究からフィールド試験を重ね、実用化への検討までを研究の過程としている。



また、研究活動によって得られた成果を基に、小・中学生や地域住民を対象にした環境・エネルギー教育プログラムの実践を通して、地域に貢献できる工業人の育成をもめざしている。

さらに、知的財産権についての学習として、特許マインドの育成を図りながら、環境・エネルギー分野のスペシャリストを育てたい。

## 実施上の留意点

### 1 各学科が共同参画した取り組み

「環境考学」は、各学科ごとに専門性を生かした学習活動を行っているが、風力発電の研究は電気科と機械科が、太陽光発電の研究は電子機械科と機械科が、水質浄化の研究は化学工業科と機械科が共同で研究を進めている。このような学科の枠を越えたスペシャリストチームの編成によって、幅広い学習を行う。

### 2 学校、行政機関、企業等との連携

スペシャリストをめざすために、近隣の大学や高等専門学校、行政機関や企業と連携し、専門的知識やより高度な技術を身に付けさせる。

### 3 地域への貢献・支援

地域の自然環境に目を向け、自然環境を改善しようとする心を育てるとともに、地域住民に環境やエネルギーの大切さを啓発することで、研究成果の還元、普及を図る。

(協力：宇部工業高等学校)



(太陽光発電追尾システムを作製中)

(自作追尾システムの動作確認)

# 高大連携教育で進路を考える

教科・科目「ハローサイエンス」（学校設定科目）・総合的な学習の時間 実施可能学年 1・2年

## 1 学校設定科目「ハローサイエンス」

大学キャンパスにおいて、最先端科学を学ぶことにより、科学のすばらしさや楽しさに気付くとともに、興味・関心を高め、将来の進路選択の指針とするという趣旨で、理数科1年生を対象に、学校設定科目「ハローサイエンス」を実施している。

平成16年6月に、大学と高大連携教育の協定を交わした。これは、高校生が大学で学修した成果を修得単位として認定する取組みである。

理数科の生徒は科学に対する興味・関心が高く、連携大学の医学部や工学部が近くにあることから、実際に大学に行って大学の講義を受講してみたいという強い欲求を持っている。その希望を実現させることで、生徒は学習へのモチベーションを高めることができ、また、進路についても考えることができる。

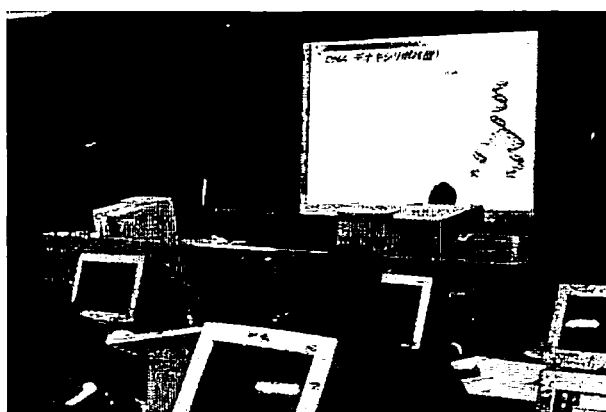
平成17年度は、大学の医学部において、大腸菌への遺伝子導入などの最先端科学について実習を行った。



(医学部における形質転換の実験の様子)

## 2 「ハローサイエンス」の研究発表会

「ハローサイエンス」の学習のまとめとして、学年末に研究発表会を実施している。



(研究発表会の様子)

この研究発表会は、受講した生徒が、大学の医学部や工学部で学んだことを基にして、個人でテーマを決めて調査研究を行い、その成果を発表し合うものである。例えば、医学部での実習において、オワンクラゲの遺伝子を導入して光る大腸菌を作製した生徒は、遺伝子をテーマに、「クローンについて」「DNAについて」といった内容で研究発表を行った。

また、この研究発表会には、大学から先生を招き、研究に対して指導助言をいただくなど、外部からの評価を取り入れている。

このような活動を通して、プレゼンテーション能力を育てるとともに、外部の専門家からの指導を受けたり、仲間同士で相互評価を行ったりすることで、自分の研究を振り返り、科学的探究心を高めることができると考えている。

■ キャリア教育の観点から ■

この取組みは、将来の夢を実現させるための進路選択の参考となる実践であり、生徒の「夢づくり」につながるものです。また、外国人留学生との実験・実習授業は、国際人として活躍するために必要なコミュニケーション能力も高められることから、「人とかかわり」を深める取組みであるともいえます。

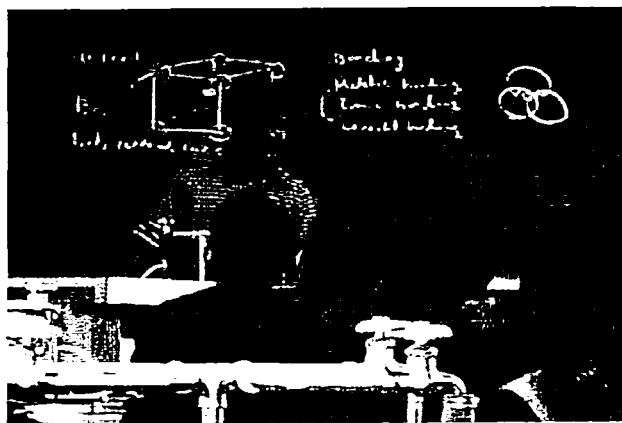
3 留学生による実験・実習授業

連携大学には300人近くの留学生が在学している。そこで、アジア周辺諸国の理系留学生を授業の講師として招へいし、彼らの専門分野の紹介等を通じた交流を図ることをねらいとし、総合的な学習の時間に、留学生による英語を使った実験・実習授業を実施している。

この取組みを通して、将来、国際人として活躍するために必要な外国人とのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、日本に留学し学問を志す留学生の向学心の高さに刺激を受けることにより、学習意欲の向上にもつながると期待している。

平成17年度は、中国、韓国、タイの留学生4人が計8時間の授業を行った。平成16年度はトルコ、イランなどの留学生4人が専門の生物や物理の実験などを実施した。

事後の生徒アンケートでは、留学生の向学心の高さに感化される生徒も多かった。

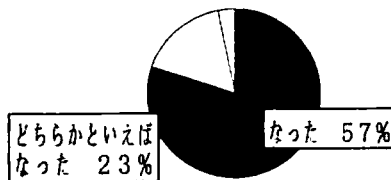


(韓国人留学生による授業)

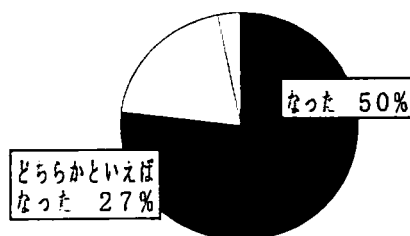
生徒の意識の変容

「ハローサイエンス」や留学生による授業後のアンケートからは、「進路選択」と「学習意欲の向上」について、8割近い生徒から効果があったという結果を得た。

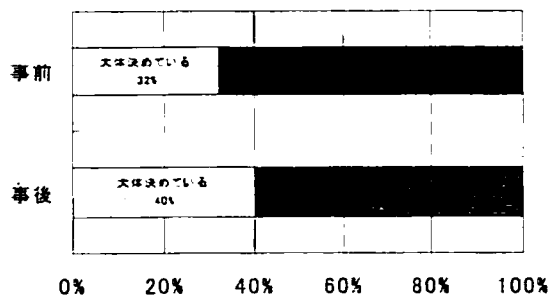
進路選択の参考になりましたか？



今後の学習意欲の向上につながりましたか？



進学したい大学を決めていますか？



(学習前後の生徒の進路意識の変化)

また、これらの取組み前後の生徒の進路意識を比較すると、事後では「進学したい大学を大体決めている」と答えた生徒が増えていることから、進路意識の高まりが見られたと考える。(協力校：宇部高等学校)

# 山口県におけるキャリア教育

(調査結果は、いずれも平成16年度)

## 小学校

公立小学校（全336校）の職場体験等実施状況

	地域人材等を 招へいしての講話等	職場体験
実施学校数	324校	17校
実施率	96.4%	5.1%



### 大人に学ぶ小学生サポートプラン

ねらいは？

地域の職業人や卒業生等による職業講話やものづくり体験授業等の実施を通して、子どもたちが、働くことの大切さや意義について学ぶとともに、自己の進路や生き方について考える機会とするなど、小学校におけるキャリア教育の充実をねらいとしています。

実施内容・方法は？



- ・ 各学校において実施目的に沿った講師を選定し、実施計画を立てます。
- ・ 原則として、クラスあるいは学年全体で、5日間連続で実施します。
- ・ 地域の職業人や卒業生等の協力により、総合的な学習の時間等を活用し、一つのテーマのもと、講話と体験を組み合わせた集中講座を開設します。
- ・ 講師の招へいについては延べ5人以内とし、1人の講師が5日間連続して来校、毎日別の講師が来校など、学校や児童の実情に応じて計画します。

#### 平成17年度モデル校

岩国市立愛宕小学校  
上関町立上関小学校  
山口市立中央小学校  
美祢市立重安小学校  
下関市立養治小学校  
萩市立むつみ小学校

美川町立美川小学校  
下松市立豊井小学校  
防府市立富海小学校  
山陽小野田市立須恵小学校  
下関市立堀田小学校  
長門市立日置小学校

柳井市立柳北小学校  
周南市立徳山小学校



# 中 学 校

## 1 公立中学校（全178校）の職場体験等実施状況

	職 場 体 験	地域人材等を 招へいしての講話等
実施学校数	162校	154校
実施率	91.0%	86.5%

### 「キャリア・スタート・ウィーク」平成17年度推進地域と実施中学校

子どもたちの勤労観、職業観を育てるために、中学校において5日間以上の職場体験を行う学習活動です。

5日間の職場体験を実施することにより、子どもたちの体験や体験先との人間関係が深まるとともに、働くことのすばらしさ、喜び、厳しさを感じ取る子どもが増えるなど、様々な効果が期待されます。

#### 【周防大島町】

久賀中学校      大島中学校      沖浦中学校      情島中学校

#### 【阿東町】

阿東中学校      阿東東中学校

#### 【長門市】

通中学校      仙崎中学校      深川中学校（含大畑分校）  
 俵山中学校      三隅中学校      日置中学校  
 菱海中学校      向津具中学校

## 2 職場体験の学年別・期間別実施状況

実施期間	学 年			計
	1年	2年	3年	
1日	22校	86校	10校	118校
2日	2校	46校	5校	53校
3日	0校	29校	1校	30校
4日	1校	2校	0校	3校
5日	0校	0校	1校	1校
計	25校	163校	17校	205校

（複数学年で実施する学校あり）

3 職場体験の教育課程等への位置付けの状況

教育課程への位置付け		参加形態	
		原則として当該学年の全員が参加	選択・希望者等当該学年の一部が参加
A 特別活動で実施	7校	7校	0校
B 総合的な学習の時間で実施	145校	143校	5校
C 教科の授業で実施	3校	3校	0校
D 教育課程には位置付けず 長期休業期間等に実施	16校	15校	1校

(複数学年で実施している学校あり)

高等学校

公立高等学校（全日制）におけるキャリア教育実施状況

実施事業等	実施校	実施率
インターンシップ	48校	67.6%
職業講話	66校	93.0%
職場見学	43校	60.6%
上級学校体験入学	35校	49.3%
高大連携	29校	40.8%
P T Aとの連携活動	10校	14.1%
地域との連携活動	11校	15.5%

小・中・高連携も視野に

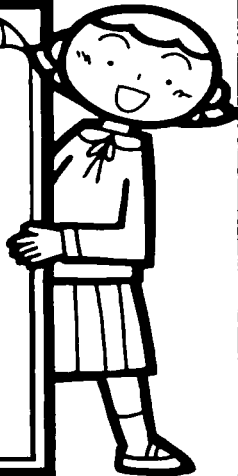
平成16年度から18年度にかけて、キャリア教育推進地域として、宇部市が指定されています。実践協力校では、系統的なキャリア教育のカリキュラム開発、中学校における複数日の職場体験の実施、高等学校における早期からのインターンシップの実施等を行っています。

また、小学校・中学校・高等学校におけるキャリア・アドバイザーの有効活用と職場体験・インターンシップ受け入れ企業バンクの作成を進めています。

**キャリア教育**  
**推進地域指定事業**


【実践協力校】



琴芝小学校 鶯ノ島小学校  
 藤山小学校 上宇部中学校  
 桃山中学校 藤山中学校  
 宇部高等学校  
 宇部西高等学校  
 宇部商業高等学校



# キャリア教育・学習系統表

～一人ひとりの夢の実現に向けて～

表中の  は、想定される学習内容や学習活動です。

 は、第2章で紹介する事例であり、 により、掲載ページを表しています。



発達課題	小学校 (小学部)	中学校 (中学部)	高等学校 (高等部)
視点	<p>自己及び他者への積極的関心の形成・発展</p> <p>身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上</p> <p>夢や希望、憧れる自己イメージの獲得</p> <p>勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成</p>	<p>肯定的自己理解と自己有用感の獲得</p> <p>興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成</p> <p>進路計画の立案と暫定的選択</p> <p>生き方や進路に関する現実的探索</p>	<p>自己理解の進化と自己受容</p> <p>選択基準としての職業観・勤労観の確立</p> <p>進路設計の立案と社会的移行の準備</p> <p>進路の現実味と試行的参加</p>
夢のイメージ	<p>自分の成長を褒めてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長の願いをもつ。【生活】</p> <p>中学校生活を体験することにより、新しい生活に対して期待をもつ。【特別活動】</p> <p>学校生活によりよく適応し、自己を生かすために、学校生活への希望や願いをもち、日常生活での目標を設定する。【特別活動】</p> <p>社会に専任する喜びを知り、公共のために役立つことをする。【総合・道徳・特別活動】</p> <p>ふるさとCM制作を通して、ものづくりの楽しさを学ぶ</p> <p>ボランティアについて考える</p> <p>自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うようにする。【道徳・特別活動】</p> <p>地域の人の生活にかかわる施設・職場の見学や調査を通して、様々な職業の様子に分かり、働くことの大切さに気付く。【社会・総合】</p> <p>進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。【道徳】</p> <p>地域の仕事にチャレンジ</p> <p>身近で働く人の様子を知り、それに対して興味・関心をもつ。【生活】</p> <p>町で働いている人となかよくなる</p> <p>相手に分かるように話したり、書いたりする。【国語】</p> <p>話し手の意図を考えながら、話を聞く。【国語】</p> <p>相手に対して、明るく礼儀正しく接する。【道徳】</p> <p>家庭・学校・地域でお世話になっている人に感謝の気持ちを表す。【道徳・生活】</p> <p>身近にいる幼い人やお年寄りに温かく接する。【道徳・生活・総合】</p> <p>全校又は学年の児童生徒が一堂に会して、自発的、自治的な集會活動を行う。【特別活動】</p>	<p>将来の夢や希望の実現をめざして、将来の生き方や進路に関する体験を得ながら、個性や学習の成果を生かす進路を選択する。(学ぶことの意義の理解、進路適性の興味と進路情報の活用、主体的な進路の選択と将来設計など) 【特別活動】</p> <p>自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。【道徳】</p> <p>より高い目標をめざし、希望と勇気をもって着実にやりぬく意志をもつ。【道徳】</p> <p>職場体験を充実させるために</p> <p>キャリア・スタート・ウィーク</p> <p>激進II フリーター・ニート</p> <p>職場体験などの職業や進路にかかわる体験活動等を通して、主体的に自己の生き方について考える。【総合】</p> <p>勤労の尊さや意義を理解し、専任の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。【道徳】</p> <p>勤労の尊さを自覚し、校外専任活動に意欲的に取り組もう</p> <p>話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る。【国語】</p> <p>礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。【道徳】</p> <p>幼いとのふれあいやかかわり方を工夫する。高齢者など地域の人々とかかわることができる。【家庭・総合】</p> <p>他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。【道徳】</p>	<p>高大連携教育で進路を考える</p> <p>青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考える。【家庭総合】</p> <p>学校教育全体でキャリア教育に取り組む</p> <p>「プロジェクトR」</p> <p>目指せスペシャリスト</p> <p>現代の社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、雇用と労働問題等について理解する。【現代社会】</p> <p>専門学校における日本版デュアルシステム</p> <p>労働関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業などについて、政治と経済と関連させて考察する。【政治・経済】</p> <p>高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉についての知識や技術を体系的に習得する。【家庭基礎】</p> <p>自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話したりする。【国語表現】</p> <p>乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉についての知識や技術を体系的に習得する。【生活技術】</p> <p>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。【国語総合】</p> <p>社会参加と専任などについて、論理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題について考えを深める。【倫理】</p>
働くことの意味	<p>自分たちが先生</p> <p>話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る。【国語】</p> <p>礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。【道徳】</p> <p>幼いとのふれあいやかかわり方を工夫する。高齢者など地域の人々とかかわることができる。【家庭・総合】</p> <p>他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。【道徳】</p> <p>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。【国語総合】</p> <p>社会参加と専任などについて、論理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題について考えを深める。【倫理】</p>	<p>自分たちが先生</p> <p>話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る。【国語】</p> <p>礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。【道徳】</p> <p>幼いとのふれあいやかかわり方を工夫する。高齢者など地域の人々とかかわることができる。【家庭・総合】</p> <p>他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。【道徳】</p> <p>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。【国語総合】</p> <p>社会参加と専任などについて、論理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題について考えを深める。【倫理】</p>	<p>自分たちが先生</p> <p>話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る。【国語】</p> <p>礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。【道徳】</p> <p>幼いとのふれあいやかかわり方を工夫する。高齢者など地域の人々とかかわることができる。【家庭・総合】</p> <p>他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。【道徳】</p> <p>課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。【国語総合】</p> <p>社会参加と専任などについて、論理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題について考えを深める。【倫理】</p>
人のかかわり	<p>全校又は学年の児童生徒が一堂に会して、自発的、自治的な集會活動を行う。【特別活動】</p>	<p>全校の生徒により組織する生徒会において、全校の生徒が協力合せて、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行う。</p>	<p>全校の生徒により組織する生徒会において、全校の生徒が協力合せて、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行う。</p>

夢のイメージ

働くことの意味

人のかかわり



山口県教育委員会

平成18年3月